

『三譯総解(第七)』ハンゲル表記満洲語文語索引*

王 海波
(嶺南師範学院)

キーワード: 『三譯総解』、ハンゲル表記、満洲語文語

1. はじめに

朝鮮時代の司譯院は、外交通訳を担うと同時に、外国語教育機関としても機能していた。ここには漢学・倭学・蒙学・女真学の四学が置かれ、満洲人の入関後には女真学が清学へと改められた。現存する清学書としては、読本類の『八歳兒』・『小兒論』・『三譯総解』・『清語老乞大』と、辞書類の『同文類解』・『漢清文鑑』が挙げられる(小倉 1914a: 44-45; 1914b: 257-262; Lie 1972: 19-21; 邵磊 2011: 290)。

清学書におけるハンゲル表記の満洲語文語は、必ずしも満洲文字で書かれた満洲語文語を一对一で転写したものではない。例えば、満洲語文語の CVwV (C=子音、V=単母音または二重母音)に相当する語形が、ハンゲル表記では1音節で書かれる場合もあれば、2音節で書かれる場合もある。また、満洲語文語の e に対応するハンゲル表記や io に対応するハンゲル表記などにも、それぞれ複数の対応形式が見られる。ハンゲル表記の満洲語文語は、満洲文字では表しきれない発音上の細部を、ある程度反映している可能性がある。清学書における満洲語文語の満洲文字表記とハンゲル表記の対応関係に関する研究としては、池上(1951; 1954; 1963)、今西(1958)、성백인(1984)、岸田(1989)、Ikegami(1990)、崔宰宇(1997)、菅野(2005)、邵磊(2011; 2016)、和田(2013)、王敵非(2013)、邵磊・多麗梅(2022; 2023)、邵磊・金龍軍(2022)、邵磊・林茶英(2022)、邵磊・王敵非(2022)、邵磊・任國俊(2023)などが挙げられる。

満洲文字とハンゲルの表記対応の問題を検討するには、ハンゲルで記された満洲語文語の語を、対応するメレンドルフ式転写にもとづいて配列し、整理する作業が有効であると考えられる。そこで本稿では、清学書『三譯総解』(全十巻)の第七巻(『三譯総解(第七): 龐統進獻連環計』)にあるハンゲル表記の満洲語文語の語について、メレンドルフ式転写にもとづき索引を作成する。

2. ハンゲル表記満洲語文語の索引

次表は、清学書『三譯総解(第七)』におけるハンゲル表記の満洲語文語の語形を、メレンドルフ式転写のアルファベット順に配列したものである。

[1] 第1列には、満洲文字で書かれた語のローマ字転写(メレンドルフ式転写)と、その語の和訳を示している。和訳については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、福田(2008)等を参考にした。なお、和訳は原則として『三譯総解』中の文脈に限定した意味ではなく、一般的な語義に基づくものとする。

[2] 第1列の動詞については、原則として未完了形とその和訳を記載している。ただし、『三譯総解』における記録が未完了形以外の形式である場合には、第1列に未完了形と和訳を示すとともに、その下の行には、対応する語形を併記している。

* 本稿は、中国国家社会科学基金後期資助項目「満語支語言音系学研究」(課題番号 22FMZB009)の助成を受けた研究成果の一部である。

[3] 第2列には、『三譯総解』に見られるハングル表記の満洲語文語の語形を示している。
 [4] 第3列は、当該語形が『三譯総解』原書のどこに出現しているかを示したものである。たとえば「(7-1a-2-3)」は「第7巻-第1葉a面-第2行-第3語」を表す。「第X語」とは、ハングル表記の満洲語文語のみを対象に順に計数した場合のX番目に現れる語を指す(ハングル表記の満洲語文語以外の語は計数から除外する)。

表1：『三譯総解（第七）』ハングル表記満洲語文語索引

メンドルフ式転写と和訳	ハングル表記	出現箇所
abka 「空」	압카	(7-2b-2-6) (7-8a-1-3)
acabumbi 「合わせる；合わせる」	---	---
acabume	아차부머	(7-14a-4-3)
acabure	아차부러	(7-11a-2-2) (7-11b-1-2)
acambi 「会う；合う」	---	---
acaha	아차하	(7-4b-3-5) (7-10a-6-5)
acaki	아차키	(7-9a-1-2)
acame	아차머	(7-12a-4-6)
acarakū	아차라쿠	(7-17a-4-3)
acanambi 「会いに行く；合っている」	---	---
acanafi	아차나피	(7-12a-2-1)
adambi 「並ぶ、隣り合う」	---	---
adafi	아다피	(7-19a-1-1) (7-19a-1-6)
adali 「同様」	아다리	(7-15a-3-7) (7-16b-1-4)
adarame 「如何に」	아다라머	(7-3a-6-2) (7-3b-6-1) (7-10a-6-8) (7-20a-1-1) (7-23b-2-2)
afambi 「攻める、戦う」	---	---
afara	아파라	(7-14b-3-3)
ahūn 「兄」	아훈	(7-5a-1-4)
ai 「何；何の」	애	(7-15b-6-3) (7-21b-4-3)
aibide 「どこに」	애비더	(7-22a-2-1)
aikabade 「もし」	애카바더	(7-11b-2-1)
aimaka 「多分」	애마카	(7-6a-4-3)
ainambi 「何をする、どうする」	애남비	(7-16b-6-1)
ainaha	애나하	(7-10a-4-3) (7-17b-2-7)
ainahai	애나해	(7-23a-5-1)
ainara	애나라	(7-6b-4-4)
ainu 「なぜ」	애누	(7-4b-5-1) (7-5a-3-1) (7-9b-4-2) (7-19b-2-6)
aisilambi 「助ける」	애시람비	(7-1a-3-5)
ajige 「小さい」	아지거	(7-2a-4-4) (7-7b-2-7) (7-14b-5-2) (7-18a-2-4) (7-18b-5-3)
akdambi 「信頼する」	---	---

akdaci	악다치	(7-1b-1-2)
akdulambi 「固める ; 保証する」	---	---
akdulara	악두라라	(7-11a-5-6)
akū 「無い」	아쿠	(7-1b-2-2) (7-7b-6-3) (7-9b-4-4) (7-10b-6-4) (7-15b-6-5) (7-16b-4-1) (7-18a-3-2) (7-18b-2-3) (7-19b-5-6) (7-21a-2-2) (7-21b-4-5) (7-23b-4-4)
alambi 「告げる」	---	---
alafi	아라피	(7-5b-6-3)
alaha	아라하	(7-12a-2-6)
alahakū	아라하쿠	(7-5b-5-2)
alaki	아라키	(7-5a-2-4)
alame	아라머	(7-9a-5-6)
alara	아라라	(7-15b-3-5)
alanambi 「告げに行く」	---	---
alana	아라나	(7-2a-6-4)
alibunjimbi 「呈しに来る」	---	---
alibunjihangge	아리분지항거	(7-23a-4-7)
alimbaharakū 「甚だ」	아림바하라쿠	(7-16b-2-2)
alimbi 「受ける ; 引き受ける」	---	---
aliki	아리키	(7-2a-1-6)
alirakū	아리라쿠	(7-10a-1-3)
alin 「山」	아린	(7-7a-1-1) (7-7b-2-2) (7-13b-3-4)
ališambi 「悶える」	---	---
ališame	아리샤머	(7-7b-5-6)
aljambi 「離れる ; 顔色を変える」 (angga aljambi 「約束する」)	---	---
aljafi	알자피	(7-4b-4-4)
amala 「後ろ(に) ; 後に ; これから」	아마라	(7-3b-3-5) (7-8a-3-5)
amargi 「北 ; 後ろ」	아말기	(7-7b-2-4) (7-13b-4-4)
amasi 「後ろに」	아마시	(7-6b-1-3) (7-14b-5-6)
amba 「大きい」	암바	(7-3a-4-3) (7-6a-1-4) (7-14b-3-4) (7-18a-2-3) (7-18a-6-3) (7-18b-5-2) (7-21a-3-7)
amban 「大臣 ; 大きい」	암반	(7-22b-6-7)
ambasa 「大臣たち」	암바사	(7-12b-4-2)
ambula 「多い ; 大いに」	암부라	(7-2a-2-2) (7-4a-3-5) (7-14a-6-2) (7-16a-1-2) (7-17a-1-7) (7-17a-5-1) (7-20b-5-2)
andande 「瞬時に」	안단더	(7-4a-2-2)
anggala 「～よりもむしろ ; ～のみならず」	앙가라	(7-19a-5-4)

antaha 「客」	안타하	(7-12a-5-3)
arabumbi 「作らせる；書かせる」	---	---
arabufi	아라부피	(7-22a-6-1)
arambi 「作る；書く；～のふりをする」	---	---
arafi	아라피	(7-15b-3-4) (7-16b-3-5)
araha	아라하	(7-22b-4-9)
arahabi	아라하비	(7-14b-3-2)
arame	아라머	(7-13b-6-1)
arga 「方法；計略」	알가	(7-3a-3-3) (7-3b-3-1) (7-16a-4-3) (7-18a-1-5) ¹ (7-23a-2-1) (7-23a-4-5) (7-23a-6-4)
asiha 「若い；若者」 ²	아시하	(7-12b-1-6)
babe 「所/里を」	바버	(7-20a-2-7)
bade 「所/里に」	바더	(7-4b-1-6) (7-10a-6-4) (7-13a-5-5)
bahabumbi 「得させる」	바하븀비	(7-18a-4-4)
bahambi 「得る」	바함비	(7-18b-4-5)
baha (完了)	바하	(7-22a-4-1)
bahafi	바하피	(7-3b-1-1) (7-22a-4-7) (7-23a-5-3) (7-23b-2-3)
bahanambi 「できる」	---	---
bahanarakū	바하나라쿠	(7-10b-6-2)
bai 「所/里の」	배	(7-18b-3-4)
baimbi 「探す；求める」	---	---
baifi	배피	(7-11b-5-5) (7-20a-5-1)
baime	배머	(7-11b-4-6)
baire	배리	(7-21b-6-6)
baita 「事」	배타	(7-21a-2-1)
baitalambi 「使う」	---	---
baitalaki	배타라키	(7-3a-2-3) (7-3b-4-3)
baitalara	배타라라	(7-15a-3-4) (7-23a-2-3)
baitalarakū	배타라라쿠	(7-11a-3-5)
balai 「みだりに」	바래	(7-3a-5-7) (7-15b-6-6)
baniha 「感謝」	바니하	(7-19b-4-5)
banjibumbi 「生ませる；養う；編纂する；創作する」	---	---
banjibuha	반지부하	(7-17b-4-1)

¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

² 当該語は『増訂清文鑑』では asihan と綴られている。asihan 「少」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』では asiha と綴られている。見出し語 asiha 「幼少。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、asiha に対応する形で現れている。なお、岸田(1997: 224)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、いずれも asihan である。

banjimbi 「暮らす；生む；生まれる」	---	---
banjiha	반지하	(7-14a-3-1)
banjihangge	반지항거	(7-9a-3-6)
baru 「～に向かって」	바루	(7-2b-2-9) (7-2b-5-3) (7-3a-1-1)
bayan 「富んだ」	바얀	(7-21b-1-1)
be 「私たち(除外的)」	버	(7-10a-5-4)
be 「を」	버	(7-1a-4-3) (7-1a-5-7) (7-1b-4-3) (7-1b-5-3) (7-1b-6-4) (7-2a-1-3) (7-2a-3-2) (7-2a-6-3) (7-2b-1-7) (7-3a-1-5) (7-3a-2-2) (7-3a-3-4) (7-3a-4-8) (7-3b-2-1) (7-3b-3-2) (7-3b-4-2) (7-4a-4-6) (7-4a-5-5) (7-4b-1-3) (7-4b-2-3) (7-5a-2-3) (7-5b-4-7) (7-6a-1-1) (7-6a-1-6) (7-6b-2-4) (7-6b-6-1) (7-6b-6-6) (7-7a-2-3) (7-7b-1-4) (7-7b-4-2) (7-8a-4-2) (7-8b-3-4) (7-9a-5-1) (7-9b-6-5) (7-10a-1-2) (7-10a-1-5) (7-10a-1-8) (7-10a-2-4) (7-10b-4-3) (7-10b-5-8) (7-11a-5-4) (7-11a-5-7) (7-11b-4-5) (7-12a-2-4) (7-12a-4-1) (7-12b-2-5) (7-12b-3-3) (7-12b-4-3) (7-13a-4-2) (7-13b-2-6) (7-14b-1-4) (7-14b-4-2) (7-14b-5-4) (7-14b-6-4) (7-15a-3-5) (7-15a-6-3) (7-15b-3-1) (7-15b-3-7) (7-15b-4-2) (7-15b-5-4) (7-16a-5-5) (7-16b-3-3) (7-17a-1-5) (7-17b-2-4) (7-18a-3-3) (7-18a-4-2) (7-18b-6-1) (7-18b-6-8) (7-19a-1-5) (7-19b-6-4) (7-20a-6-6) (7-20b-4-1) (7-21a-1-3) (7-21a-4-2) (7-21a-5-8) (7-21b-1-9) (7-21b-3-6) (7-21b-5-2) (7-21b-6-3) (7-22a-4-5) (7-22b-6-1) (7-23a-1-4) (7-23a-2-2) (7-23a-2-6) (7-23a-4-6) (7-23b-1-2)
bederembi 「戻る、帰る、退く」	버드럼비	(7-18b-1-6)
bederefi	버드러피	(7-16a-2-3)
bederere	버드러러	(7-12b-5-2) (7-13b-6-3)
belembi 「誣いる」	---	---
beleme	버러머	(7-10a-1-6)
benembi 「送る」	---	---
bene	버너	(7-7a-1-5)
beneci	버너치	(7-7a-3-5)
benefi	버니피	(7-7b-2-6)
beneki	버너키	(7-6b-1-4)
benjibumbi 「送ってこさせる」	---	---
benjibure	번지부러	(7-23a-3-4)
besergen 「寝台」	버슬건	(7-5b-3-2)

beye 「体 ; 自分」	벼여	(7-2b-4-6) (7-10a-2-3) (7-11a-5-3) (7-16b-3-2) (7-22b-3-5) (7-23b-3-5) (7-23b-4-2)
bi 「私」	비	(7-3a-3-1) (7-4b-6-6) (7-5b-1-2) (7-6a-5-3) (7-6b-2-2) (7-7a-2-1) (7-10a-4-7) (7-10b-2-1) (7-10b-5-4) (7-11a-1-7) (7-14a-4-2) (7-15a-2-5) (7-15b-3-2) (7-15b-6-1) (7-20b-3-3) (7-21a-6-4)
bi 「ある ; いる」	비	(7-8a-6-3) (7-9b-4-8) (7-12b-5-4) (7-15a-1-5) (7-17b-5-4) (7-18a-1-6)
bici	비치	(7-6a-6-2) (7-11a-1-6) (7-11b-1-4) (7-19b-4-3) ³ (7-19b-5-7)
bihe	비허	(7-5b-3-5) (7-10a-6-6) (7-15a-4-3)
bihebi	비허비	(7-4a-1-1) (7-17a-6-2)
bikai	비캐	(7-10a-2-7)
bikini	비키니	(7-7a-1-7)
bio	뵤	(7-16b-4-7)
bisire	비시러	(7-7b-6-4) (7-17b-1-3)
bibumbi 「留める」	---	---
bibuci	비부치	(7-6b-3-5)
bithe 「本 ; 字 ; 学識」	빈허	(7-1a-6-3) (7-5b-4-6) (7-8a-3-7) (7-8b-4-5) (7-21b-6-5) (7-22a-3-6) (7-22a-5-4) (7-23a-3-3)
bodohon 「謀、計略」	보도훈	(7-19b-5-5)
bodombi 「考える ; 計算する」	---	---
bodoci	보도치	(7-15b-5-5)
bodon 「韜略」	보돈	(7-16a-5-2)
boihoji 「主人」 ⁴	뵤호지	(7-12a-5-4)
boljon 「波」	볼존	(7-18b-2-1) (7-19b-1-7)
boo 「家 ; 部屋」	보	(7-8a-6-2) (7-12a-3-3) (7-22a-1-6)
boode 「家/部屋に ; 家/部屋で」	보더	(7-4a-4-2) (7-7a-1-4) (7-7a-5-7) (7-7b-2-9) (7-9b-4-5) (7-10b-3-4) (7-12a-4-4)
booi 「家/部屋の」	부	(7-7b-5-1) (7-8a-3-4) (7-8a-6-4)
bucembi 「死ぬ」	부첨비	(7-15b-1-6)
bucehengge	부쳐헝거	(7-17a-5-5)
buda 「飯」	부다	(7-13a-1-5)
bujan 「林」	부잔	(7-13b-4-1)
bumbi 「与える」	---	---
buhe	부허	(7-22a-6-4)
bume	부머	(7-19b-4-6)

³ 岸田 (1997: 262-263) によれば、当該箇所(7-19b-4-3)における bici 「비치」は、baci 「바치」の誤記である。『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、いずれも baci である。

⁴ 当該語は『増訂清文鑑』では boigoji と綴られている。boigoji 「主人」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』では boihoji と綴られている。見出し語 boihoji 「主人婆。家主。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、boihoji に対応する形で現れている。

buyembi 「愛する；願う」	부엨비	(7-11a-6-1) (7-21a-6-1)
buyere	부여러	(7-13b-2-7)
canenggi 「一昨日」 ⁵	차녕기	(7-1b-4-1)
cenghiyang 「漢語丞相」	청향	(7-15a-3-1) (7-20a-2-8) (7-20b-6-3) (7-21b-2-3)
ci 「より」	치	(7-12a-3-4) (7-14a-3-4) (7-22b-1-3)
cimari 「明日；朝」	치마리	(7-6b-2-6) (7-15b-1-4)
cira 「顔、顔色」	치라	(7-4b-4-3)
cohome 「特に」	초호머	(7-1b-2-3) (7-5a-1-8)
cooha 「兵；軍」	초하	(7-14b-6-6) (7-15a-3-3) (7-17a-1-4) (7-17a-3-5) (7-17b-3-4) (7-18a-2-5) (7-20a-4-4)
coohai 「兵/軍の」	초해	(7-2a-1-1) (7-7b-3-5) (7-8b-4-4) (7-16a-4-2) (7-16b-4-3) (7-20b-1-3)
cuse 「漢語竹子」(cuse moo 「竹」)	츄스	(7-22b-4-5)
cuwan 「漢語船」	촨	(7-2a-3-3) (7-3a-4-7) (7-3a-5-6) (7-3b-1-5) (7-11b-5-4) (7-14b-4-1) (7-14b-5-3) (7-18b-3-6) (7-18b-5-4) (7-18b-6-7) (7-19a-1-4) (7-19a-4-1) (7-19b-1-1) (7-20a-6-5) (7-22b-2-3) (7-23a-4-3)
dabumbi 「数の内に入れる；点ける」	다뽁비	(7-3b-1-4)
dabuha	다부하	(7-3a-5-2) ⁶
daci 「もとより」	다치	(7-2b-6-2)
dagilambi 「準備する」	---	---
dagilafi	다기라피	(7-16a-2-5)
dahambi 「付き従う；投降する；従う」	다함비	(7-5a-6-5)
daha (命令)	다하	(7-5a-5-4)
dahaci	다하치	(7-5a-6-4)
dahahabi	다하하비	(7-6a-3-7)

⁵ 岸田 (1997: 85, 134) によれば、当該語は『増訂清文鑑』・『同文類解』・『大清全書』・『滿漢同文全書』・『同文広彙全書』・『滿漢事類集要』・『滿漢類書』のいずれにおいても cananggi と綴られている。また、『同文物名類集』(上-12b)における滿洲文字と漢字注音はそれぞれ cinenggi と「渣能機」であり、「渣能機」から推定すると、cinenggi は cananggi の誤記である可能性がある。『三譯総解』の当該箇所では canenggi と綴られている。なお、岸田 (1997: 219) によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも cananggi である。

⁶ 当該の dabuha は原文では、emu cuwan be towa dabuha de 「훈비물블지르먼」という文脈に出現している。ここの towa dabu- は抱合 (incorporation) の例と考えられる。towa という語形については王海波 (2026a: 34) の脚注 37 を参照されたい。

なお、「～に放火する」は、(... be) tuwa dabu- のほかに、(... be) tuwa sinda- という表現もある。例えば、上原 (1960: 351) が挙げた『滿洲実録』の... be tuwa sinda- の例を参照されたい。筆者が調査した滿洲語黒河方言では「火」を表すのに /yaxe/ (文語 yaha 「無燄火」に対応) が多用されるが、文語の tuwa 「火」に対応するものは /tuašna-mi/ [tʰuašnamie] (文語 tuwa sindambi 「放火する」に対応) という表現には現れる。趙傑 (1989: 24) は滿洲語泰来方言の tʰaʂɮ nemi 「烧 (火)」を記録しているが、語源については言及していない。この tʰaʂɮ nemi も、tuwa sindambi に由来すると考えられる。

dahaki	다하키	(7-1a-5-3)
dahame	다하머	(7-4b-2-4)
dahara	다하라	(7-11a-1-4) (7-23a-3-2)
dahūn (dahūn dahūn i 「度々」)	다훈	(7-17b-6-2) (7-17b-6-3)
daifu 「医者(漢語大夫)」	대푸	(7-16b-4-6)
dalbade 「傍らに/で」	달바더	(7-8a-5-2)
daldambi 「隠す」	---	---
daldara	달다라	(7-5b-4-5)
dalin 「岸」	다린	(7-2a-5-3) (7-11b-5-1) (7-22a-3-3) (7-22b-1-7)
damu 「もっぱら ; ただ ; かし」	다무	(7-3b-5-3) (7-8a-3-6) (7-11a-3-3) (7-17b-5-2) (7-21b-1-6)
dasambi 「改める ; 治す ; 治める」	---	---
dasakini	다사키니	(7-17a-2-3)
dasame	다사머	(7-14a-2-7)
de 「に ; で」	더	(7-1a-3-1) (7-1b-2-7) (7-2a-4-6) (7-2b-4-7) (7-3a-4-5) (7-3a-5-3) (7-4b-2-6) (7-4b-3-4) (7-5a-5-3) (7-5b-3-3) (7-5b-4-3) (7-5b-6-2) (7-6b-3-4) (7-6b-4-3) (7-7a-2-6) (7-7a-5-3) (7-7b-2-5) (7-7b-6-5) (7-8b-3-6) (7-10b-4-5) (7-11a-1-3) (7-11a-3-6) (7-11b-2-3) (7-11b-5-2) (7-11b-6-4) (7-12a-1-5) (7-12a-6-2) (7-12b-2-2) (7-12b-4-8) (7-13a-6-1) (7-13b-4-2) (7-16a-2-2) (7-17a-4-2) (7-17b-1-4) (7-17b-1-6) (7-18a-2-6) (7-18b-3-7) (7-19a-2-3) (7-19a-4-7) (7-19b-1-2) (7-19b-1-4) (7-19b-2-4) (7-19b-3-3) (7-20b-4-5) (7-20b-6-6) (7-21a-1-6) (7-21a-4-4) (7-21a-4-6) (7-21b-3-3) (7-22a-3-4) (7-22a-4-2) (7-22a-6-3) (7-22b-2-1) (7-22b-2-4) (7-22b-2-7) (7-22b-3-6) (7-22b-4-4) (7-23b-3-3) (7-23b-4-3)
dedumbi 「横になる」	---	---
deduci	더두치	(7-7b-6-1)
deducibe	더두치버	(7-15a-1-2)
deduhe	더두허	(7-5b-3-4)
dekdemi 「浮く ; 鳥が飛び立つ ; 日が昇る ; 起こる」	---	---
dekdehebi	덕더허비	(7-8a-2-3)
dekdere	덕더러	(7-19b-2-2)
deken 「やや高い」	더킨	(7-13a-5-4)
dengjan 「灯火(漢語灯盞)」	등잔	(7-8a-6-6) (7-8b-2-5)
deo 「弟」	톈	(7-5a-1-5)

dere 「～であろう」	드리	(7-5a-6-6) (7-11a-2-3) (7-23b-1-5)
dergi 「上；東」	덜기	(7-1a-2-5) (7-19b-6-1) (7-20b-3-6)
deri 「より」	드리	(7-1a-3-4)
deribumbi 「始める」	---	---
deribufi	더리부피	(7-3b-3-3)
dobori 「夜」	도보리	(7-8a-1-2) (7-11b-5-6) (7-20a-5-2)
dobton 「帙」	돛톤	(7-16a-5-4)
dobumbi 「川を渡らせる」	---	---
dobume	도부머	(7-7a-3-4)
dolo 「内；心中；腹中」	도로	(7-4a-6-4) (7-7b-5-2) (7-14b-5-1) (7-16b-4-4) (7-20a-4-5)
dolori 「内側；心密かに」	도로리	(7-1b-4-6) (7-2b-2-5)
donjimbi 「聴く」	---	---
donjici	돈지치	(7-17b-2-5)
donjifi	돈지피	(7-2b-2-4) (7-4a-2-7) (7-8a-4-3) (7-20b-2-1)
donjiha	돈지하	(7-15a-4-2)
doombi 「川を渡る」	돛비	(7-19a-5-2)
dooha	토타	(7-21b-3-2)
doose 「漢語道士」	토타	(7-22b-3-7)
dorgi 「内」	돌기	(7-1a-3-3) (7-8a-6-5)
doro 「道理；礼儀」	도로	(7-12a-5-5)
dosimbi 「入る；進む；進撃する」	---	---
dosifi	도시피	(7-4b-3-1)
dosika	도시카	(7-7a-5-8)
dosire	도시러	(7-13b-5-2)
dosimbumbi 「入れる」	---	---
dosimbufi	도심부피	(7-10b-3-5) (7-12a-4-5)
dubumbi 「打たせる」 ⁷	---	---
dubufi	두부피	(7-20a-6-1)
duin 「四」	뉘	(7-14b-2-5)
duka 「門」	두카	(7-9a-1-4) (7-9a-2-2) (7-13b-5-3) (7-14b-3-1)
dulembi 「過ぎる」	---	---
dulenderakū ⁸	두런더라쿠	(7-14a-3-5)
dulimbi 「徹夜する」	---	---
dulime	두리머	(7-11b-5-7) (7-20a-5-3)
dze 「漢語沢」	저	

⁷ 当該動詞語幹は、tūbu- と dubu- の両綴りが存在する。『三譯總解』の当該箇所では、滿洲文字表記・ハングル表記のいずれも dubufi に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 227）によれば、『滿文三國志』および『滿漢合璧三國志』における対応箇所の語形は、それぞれ dubufi と tūbufi である。

⁸ Yang（2025: 73）は動詞語幹 dulen- を想定し、これに付く未完了連体接辞（原文では nonpast participle suffix 「非過去分詞接尾辞」）には -ndArA と -rA の両形が存在すると述べている。

(g'an dze 「鬪沢」)		(7-1a-5-6) (7-23a-2-5)
dzung 「漢語中」 ⁹ (dzung yuwan 「中原」) (ts'ai dzung 「蔡中」)	중	(7-18b-3-1) (7-6a-3-4)
dzy 「漢語子」 ¹⁰ (dzy i 「子翼」)	즈	(7-4b-4-6) (7-6b-6-4)
ebumbi 「降りる」	---	---
ebuŋi	어부피	(7-19b-4-4)
edun 「風」	어둔	(7-18b-1-7) (7-19b-1-6)
efulembi 「壊す；鹹す」	어푸럼비	(7-6b-3-1)
efuleci	어푸러치	(7-3a-1-6)
efulehe	어푸러허	(7-7a-2-7) (7-21a-1-5)
efuleme	어푸러머	(7-20a-1-2)
eiterembi 「欺く」	에터럼비	(7-4b-5-3) (7-5a-3-3)
eiterembi ¹¹	---	---
eitereci 「要するに」	에터러치	(7-23b-1-3) (7-23b-2-4)
elben 「茅」	얼번	(7-8a-5-7) (7-10b-3-2)
elde 「光」 ¹²	얼더	(7-8b-1-1)
eldembi 「光る、輝く」	---	---
eldekebi	얼더커비	(7-8b-1-2)
elhe 「安らかな；緩やかな」	얼허	(7-7b-6-2) (7-18a-3-6)
emgeri 「一度；既に」	엄거리	(7-1b-6-1) (7-18b-1-2) (7-18b-1-5)
emgi 「一緒に」	엄기	(7-13a-3-5) (7-14b-1-1) (7-16a-3-1)
emhun 「一人で；老いて子の いない」	엄훈	(7-9b-4-6)
emu 「一」	어무	(7-1b-2-8) (7-2a-4-3) (7-2a-6-1) (7-3a-4-6) (7-5b-3-1) (7-8a-5-3) (7-8b-2-3) (7-18a-1-4) (7-22b-3-3)
encu 「別の」	언츄	(7-8b-6-1)

⁹『対音輯字』（下巻第8葉a面）では、漢字「中」に対応する満洲文字は jung である。一方、『三譯総解』において「中原」・「蔡中」の「中」は、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも dzung に対応する形で現れている。なお、『同文類解』（1-41b-8-2）には見出し語「중완」(dzungyuwan)「中原」が見られる。ここにおける「中」のハングル表記も「중」であり、『三譯総解』における表記形式と一致している。但し、『三譯総解』では dzung yuwan および「중 완」のように分かち書きされているのに対し、『同文類解』では「중완」のように分かち書きされていない。

¹⁰ 満洲文字において漢語 c, z, r, s, ch, zh など（便宜上、ここでは漢語音をピンインで表記する）に対応する文字のメレンドルフ式転写については、von Möllendorff (1892) 本文前の THE ALPHABET 表下の For transcribing Chinese syllables および早田 (2008: 32) を参照されたい。なお、早田 (2008: 32) は、メレンドルフ式転写を改良する独自の転写案を提示している。例えば、漢語の z, zi に対応する満洲文字の転写を区別し、それぞれ dz, dzY と転写する。本稿でも早田 (2008: 32) に従って両者を区別するが、後者については dzy と転写する。

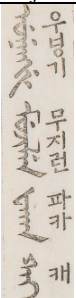
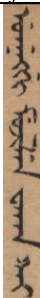
¹¹ eitereci 「要するに」と eitereme 「どんなに～しても；いつまでも」に見られる eitere- は、eiten 「すべて」に動詞化接辞 -te が付いて形成された動詞語幹に由来するものである可能性がある。

¹² 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても elden と綴られている。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、elde に対応する形で現れている。なお、岸田 (1997: 222) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形はいずれも elden である。

enduri 「神」	언두리	(7-15a-3-6)
enteke 「このような」	언터커	(7-19a-6-5) (7-23a-6-2)
erdemu 「才徳」	얼더무	(7-9b-6-4) (7-10b-5-7) (7-12b-2-1)
erdemungge 「才徳のある」	얼더몽거	(7-13b-1-1)
ere 「この ; これ ; この人」	어리	(7-2b-4-3) (7-3b-5-4) (7-8b-5-5) (7-11b-2-4) (7-14a-3-3) (7-15b-5-3) (7-19b-5-3) (7-21a-3-6)
erembi 「望む」	어림비	(7-15b-3-8)
ergen 「息 ; 命」	얼건	(7-1b-5-2) (7-11a-5-2)
ergi 「方向」	얼기	(7-6b-5-3) (7-7a-6-3)
erin 「時」	어린	(7-7a-2-5)
ertumbi 「頼る」	---	---
ertufi	얼투피	(7-9b-6-8) (7-12b-2-3)
etuku 「服」	어투쿠	(7-22b-4-2)
etumbi 「着る」	---	---
etufi	어투피	(7-22b-5-2)
eyembi 「流れる ; 目方が足りない」	---	---
eyere	어여러	(7-16b-1-3)
fafun 「法律 ; 法度 ; 伝令」	파푼	(7-2a-1-2) (7-15a-1-4) (7-20a-4-2)
faidambi 「整列する、並ぶ」	---	---
faidahabi	패다하비	(7-14b-4-6)
faidan 「行列 ; 陣 ; 儀仗」	패단	(7-16a-4-6)
faka 「なげすてた」 ¹³	파카	(7-14a-5-4)
fakcambi 「離れる、別れる」	---	---
fakcafi	팍차피	(7-22b-1-4)

¹³ 『三譯総解』(7-14a-5-4)の faka は誤記であると考えられる。この faka は、原文では unenggi mujilen faka kai という文脈に出現している。しかし、『満漢合璧三国志』の対応箇所(10-40a-4-3)の語形は waka である。

表 2 : 『三譯総解』における faka および 『満漢合璧三国志』における対応語 waka

『三譯総解』(7-14a-5-4)の faka の文脈 unenggi mujilen faka kai	『満漢合璧三国志』(10-40a-4-3)の waka の文脈 unenggi mujilen waka kai
	

なお、岸田 (1997: 262) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、いずれも waka である。岸田は『三譯総解』原文における unenggi mujilen faka kai の朝鮮語訳「진실로 무음을 더짐이라」を「まことに心をなげすてるものなり」と和訳しており、faka を「投げ捨てた」と和訳している。

faksi 「巧みな ; 職人」	팍시	(7-20a-4-7) (7-23a-6-3)
fambi 「水が枯れる ; 疲れて喉が渴く」	---	---
faha	파하	(7-5a-5-8)
fayangga 「魂」	파양가	(7-23b-4-1)
fe 「古い」	퍼	(7-5a-1-2) (7-5b-1-3) (7-6a-5-5) (7-12b-4-1)
fengsin 「高德」 ¹⁴	펑신	(7-10a-1-7)
ferguwecuke 「奇とすべき」	펄귀츄커	(7-17a-2-1)
firgambi 「秘密が洩れる」	펄검비	(7-11b-3-3)
fonde 「時に」	폰더	(7-17a-3-2)
fonjimbi 「問う」	폰짐비	(7-16b-4-2)
fonjici	폰지치	(7-12a-6-3)
fonjiha	폰지하	(7-18a-5-3)
fonjime	폰지머	(7-16b-5-2)
fonjirakū	폰지라쿠	(7-17b-2-6)
fonjire	폰지러	(7-9a-5-2) (7-17b-6-5)
forombi 「向く ; 振り向く ; 紡ぐ」	---	---
forofi	포로피	(7-14b-2-2)
fudambi 「嘔吐する」	---	---
fudame	푸다머	(7-17a-5-2)
funcembi 「余る」	---	---
funcehe	푼쳐허	(7-3a-5-5)
fungts'u 「漢語鳳雛」 ¹⁵	푹추	(7-9b-2-2)
furgimbi 「上げ潮になる ; 患部を焙る」	---	---
furgime	푹기머	(7-18b-1-3)
furgire	푹기러	(7-19b-1-8)
fusihūlambi 「輕蔑する」	---	---
fusihūlame	푸시후라머	(7-12b-4-4)
futa 「繩」	푸타	(7-19a-3-3)
futai 「繩の ; 繩で」	푸태	(7-3b-2-7) (7-20a-6-3)
gaimbi 「とる」	---	---
gaifi	개피	(7-11a-2-1)

¹⁴ 当該語 fengsin の『三譯総解』原書における朝鮮語訳は、「고덕」である。ここの「고덕」は漢字語「高德」であると考えられる。朝鮮語の「고덕(高德)」は日本語では「高德 ; すぐれて高い徳」である (두산동야 사서편집국 1994: 176)。岸田 (1997: 223) はここの「고덕」を「徳」と和訳している。岸田 (1997: 223) によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』の当該箇所には同語が現れておらず、文脈上の言語表現も異なっている。

fengsin の語形は『大清全書』や『増訂清文鑑』には収録されていない。これら両書にはそれぞれ fengšen 「福分。造化。」および fengšen 「福祉」が見出し語として収録されているが、この fengšen と『三譯総解』における fengsin 「徳」とを同一語とみなし得るかについては、慎重な検討が必要である。še と si が対応する例自体は稀ではないものの、「福」と「徳」との意味的連関については、解釈にはなお疑問が残る。¹⁵ 『對音輯字』(上巻第 11 葉 b 面) では、漢字「雛」に対応する満洲文字は cu である。一方、『三譯総解』において「鳳雛」は、fungts'u に対応する形で現れている。

gaijarakū	개자라쿠	(7-12b-3-4)
gaitai 「突然」	개태	(7-4a-2-1)
gala 「手」	가라	(7-8b-3-5)
galai 「手の ; 手で」	가래	(7-17a-2-2)
ganabumbi 「取り/連れに行かせる」	---	---
ganabuha	가나부하	(7-4a-4-7)
ganambi 「取り/連れに行く」	---	---
ganafi	가나피	(7-7b-1-1)
gebu 「名」	거부	(7-9a-4-5) (7-9a-6-4) (7-9a-6-7)
gelgun (gelgun akū 「敢えて」) ¹⁶	결군	(7-1b-2-1) (7-15b-6-4) (7-16b-3-7) (7-21b-4-4)
geli 「また」	거리	(7-1a-6-2) (7-2b-2-1) (7-6a-4-2) (7-7a-4-3) (7-14a-6-5) (7-18a-5-2) (7-18b-6-5) (7-19a-1-2) (7-20b-3-1) (7-23a-4-2)
gemu 「皆」	거무	(7-3b-2-2) (7-6a-2-2) (7-12b-5-1) (7-15a-1-3) (7-17b-4-4) (7-18a-3-5) (7-18b-6-3) (7-20b-2-2)
genembi 「行く」	---	---
gene	거너	(7-2a-3-5)
genefi	거너피	(7-5b-5-4) (7-8a-4-4) (7-8b-1-5) (7-13a-4-4) (7-14b-1-6)
geneki	거너키	(7-1b-6-2) (7-11b-1-7)
geneme	거너머	(7-2a-4-8)
genere	거너러	(7-1b-3-1)
geren 「多くの ; すべての ; 衆人」	거런	(7-10a-5-5) (7-12b-2-4) (7-12b-4-7) (7-16a-4-4) (7-18a-2-2) (7-20b-1-2)
gese 「～のような」	거서	(7-14b-4-5)
gidambi 「押さえる ; 打ち負かす ; 頭を垂れる ; 塩漬けにする ; 鳥が卵を抱く ; 隠す」	---	---
gidarakū	기다라쿠	(7-13b-2-4)
gidašambi 「差し招く ; 軽蔑する、いじめる」	---	---
gidašame	기다샤머	(7-12b-2-6)
girubumbi 「辱める」	---	---
girubume	기루부머	(7-12b-4-5)
girumbi 「恥じる」	기룸비	(7-1b-4-7)
girufi	기루피	(7-1a-3-2)

¹⁶ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても gelhun と綴られている。なお、岸田 (1997: 219, 225, 228) によれば、『満文三國志』および『滿漢合璧三國志』の当該箇所の語形は、それぞれ gelgun と gelhun である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯總解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。

gisun 「言葉」	기순	(7-5a-2-2) (7-6a-4-4) (7-12b-3-2) (7-17b-2-3) (7-19b-3-2) (7-23b-3-2)
gisurembi 「話す」	기수럼비	(7-15b-6-7)
gisureci	기수러치	(7-16a-5-6)
gisureki	기수러키	(7-20b-6-7)
gisurere	기수러러	(7-10b-4-4)
giyan 「漢語間」	간	(7-8a-5-5)
giyang 「漢語江」	강	(7-1a-2-3) (7-2a-4-9) (7-3a-4-4) (7-7a-3-3) (7-11b-4-7) (7-15a-5-6) (7-18a-6-4) (7-20b-3-4) (7-21b-3-1) (7-22a-3-1) (7-22b-1-5)
goidambi 「久くなる」	---	---
goidaha	괴다하	(7-11b-2-2)
goidarakū	괴다라쿠	(7-7a-3-6)
gosiholombi 「慟哭する；苦しむ」	---	---
gosiholome	고시호로머	(7-23a-1-5)
gucu 「友達」	구츄	(7-5b-1-4) (7-6a-5-6)
guculembi 「交友する」	---	---
guculehe	구츄러허	(7-5a-1-3)
gucuse 「友達(複数形)」	구츄서	(7-2b-5-2)
gung 「漢語功」	궁	(7-1b-4-2) (7-2b-4-1) (7-18a-4-1) (7-21a-4-1)
gung 「漢語公 (ts'oo gung 「曹公」)	궁	(7-10a-4-1) (7-10b-5-5) (7-21a-5-3) (7-3a-1-4)
gurun 「国」	구룬	(7-19b-6-3)
guwebumbi 「赦免する」	---	---
guwebure	귀부러	(7-21b-6-4)
guwedebumbi 「騙す」	---	---
guwedebuci ¹⁷	귀더부치	(7-3b-6-2)
gūnimbī 「思う」	---	---
gūniha	구니하	(7-5a-2-1) (7-10b-4-1)
gūnime	구니머	(7-3b-6-7) (7-5a-1-7) (7-8b-5-4)
gūnirakū	구니라쿠	(7-6a-6-1)
gūnin 「心；意；考え」	구닌	(7-12b-5-3)
gūsin 「三十」	구신	(7-18b-6-6)
gūwa 「別の；別の人」	귀	(7-3a-5-4)
g'ai 「漢語蓋 (hūwang g'ai 「黄蓋」)	개	(7-1a-4-2) (7-23a-1-2)
g'an 「漢語甘」	간	

¹⁷ 当該語の語幹は、『増訂清文鑑』では geodebu- と綴られている。見出し語 geodebumbi 「局弄」と geodebumbi 「誑誘」を参照されたい。一方、『大清全書』には、geodebu- と guwedebu- の両綴りが収録されている。見出し語 geodebumbi 「誑。騙。賺。誘。哄。」と guwedebumbi 「誑誘哄。誘。罔民之罔。」を参照されたい。

(g'an ning 「甘寧」)		(7-1a-2-6)
g'an 「漢語幹」 (jiyang g'an 「蔣幹」)	간	(7-1b-3-3) (7-2a-3-1) (7-2a-4-2) (7-2b-1-6) (7-4a-2-4) (7-4a-4-5) (7-4a-5-2) (7-4b-6-2) (7-7a-4-2) (7-7b-1-3) (7-7b-4-5) (7-8a-3-1) (7-8b-1-4) (7-8b-5-3) (7-9a-3-2) (7-9a-4-4) ¹⁸ (7-9b-1-3) (7-9b-3-5) (7-10a-4-5) (7-10a-5-2) (7-10b-5-2) (7-11a-4-3) (7-11b-4-2) (7-12a-1-2)
g'an 「漢語闕」 ¹⁹ (g'an dze 「闕沢」)	간	(7-1a-5-5) (7-23a-2-4)
hacin 「件、項、種；上元」	하친	(7-8b-6-2)
hadai 「峰の」	하대	(7-8a-5-1)
hadambi 「靴底を縫いつける； 釘付けにする；見つめる」	---	---
hadafi	하다피	(7-3b-2-5) (7-19a-3-1)
hafan 「官吏」	하판	(7-21a-5-6)
hairaka 「惜しむべき」 ²⁰	해라카	(7-17b-5-1)
hairambi 「惜しむ；慈しむ」	---	---
hairandara ²¹	해란다라	(7-15b-4-4)
hala 「姓」	하라	(7-9a-4-6) (7-9a-6-2)
han 「君主、皇帝」	한	(7-21a-4-5)
hanci 「近い」	한치	(7-2a-5-8)
hashū 「左」	하후	(7-6b-5-1) (7-7a-6-1)
hecen 「城」	허천	(7-14b-4-3)
hendumbi 「言う」	헌뚝비	(7-5a-4-1)
hendufi	헌두피	(7-6b-4-6) (7-10b-2-6)
hendume	헌두머	(7-1a-2-2) (7-1b-3-5) (7-2b-3-2) (7-3a-1-2) (7-3a-2-6) (7-3a-4-2) (7-3b-5-2) (7-4b-4-5) (7-4b-6-5) (7-5a-4-4) (7-6b-6-3) (7-9b-1-4) (7-9b-3-2) (7-9b-3-6) (7-10b-5-3) (7-11a-3-2) (7-11a-4-4) (7-11a-6-3) (7-12b-1-1) (7-13a-6-3) (7-13b-2-1) (7-13b-3-2) (7-15a-2-4) (7-15a-6-5) (7-15b-2-2) (7-15b-5-2) (7-16b-

¹⁸ 『三譯総解』の(7-9a-4-4), (7-10a-4-5)に出現している g'an は jiyang g'an の中で用いられておらず、単独で「蔣幹」を指している。

¹⁹ 『對音輯字』(上巻第44葉a面)では、漢字「闕」に対応する満洲文字は k'an である。一方、『三譯総解』において「闕澤」は45例出現しているが、いずれも g'an dze の形で現れている。王海波 (2026b: 10) を参照されたい。

²⁰ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』ではそれぞれ hairaka と hairakan と綴られている。『大清全書』における見出し語 ai hairaka 「何足惜。」および『増訂清文鑑』における見出し語 hairakan 「很可惜」を参照されたい。なお、岸田 (1997: 225) によれば、『満文三國志』および『満漢合璧三國志』では、対応箇所における語形はいずれも hairakan である。

²¹ Yang (2025: 73) は動詞語幹 hairan- を想定し、これに付く未完了連体接辞(原文では nonpast participle suffix 「非過去分詞接尾辞」)には -ndArA と -rA の両形が存在すると述べている。

		3-6) (7-16b-6-3) (7-17b-3-2) (7-18a-1-2) (7-18a-6-2) (7-19b-4-7) (7-20a-2-1) (7-20b-3-2) (7-21a-3-2) (7-21a-6-3) (7-21b-4-2) (7-22a-1-2) ²² (7-22a-2-4) (7-22b-6-4)
henjembī 「招きに来る」	---	---
henjeme ²³	헌져머	(7-5b-2-2) (7-10b-3-1)
henjimbi 「招きに来る」	---	---
henjihe	헌지허	(7-4b-2-1)
ho 「漢語和」 (ts'ai ho 「蔡和」)	호	(7-6a-3-2)
holbobumbi 「連ねさせる；巻き添えを食う」	---	---
holbobure	홀보부러	(7-20a-6-7)
holbombi 「結婚する；対にする；連ねる」	---	---
holbofi	홀보피	(7-19a-3-5)
holboro	홀보로	(7-3b-2-8) (7-23a-4-4)
holkon (holkon de 「突然」)	홀콘 ²⁴	(7-5b-4-2)
	홀콘	(7-17b-1-5)
holtombi 「騙す」	---	---
holtome	홀토머	(7-23a-3-1)
hošo 「角；隅；方位」	호쇼	(7-13b-6-4)
huwekiyebumbi 「奮起させる；鼓舞する」	---	---
huwekiyebume	휘켜부머	(7-6a-4-6)
hūlambi 「読む；呼ぶ；雄鶏が鳴く」	후람비	(7-8b-5-1)
hūlafi	후라피	(7-6b-6-2)

²² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「헌두머」が「헌두머」のように見えるが、本来は「헌두머」と書かれていたものと考えられる。

²³ 『三譯総解』の当該箇所には **henje-** という語幹形が見られるが、この語幹は通常 **henji-** と綴られる。岸田 (1997: 221) によれば、『瀟文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所には **henjeme** が現れておらず、文脈上の言語表現も異なっている。『三譯総解』の当該箇所における **henjeme** に対応する朝鮮語訳は「청하여」である (現代語では「청하여」)。「청」は漢字「請」に由来し、「청하여」は文字通りでは「請」+「し(て)」、すなわち、「招き」・「招いて」を意味する。この和訳については、두산동아 사서편집국 (1994: 1901) および岸田 (1997: 221) を参照されたい。

また、『大清全書』や『増訂清文鑑』には、**henje-** を語幹とする「招く」の意味の語は収録されていない。一方、**henji-** を語幹とする「招きに来る」の意味の語は収録されている。具体的には、『大清全書』における見出し語 **henjihe** 「請來了」、**henjinjihe** 「來請來了」および『増訂清文鑑』における見出し語 **henjimbi** 「來邀請」を参照されたい。また、「招きに行く」を意味する語として、『大清全書』および『増訂清文鑑』には、それぞれ見出し語 **helnembī** 「請。」と **helnembī** 「去邀請」が収録されている。

なお、『大清全書』には **henjembī** 「刷鍋。舂米。」が収録されており、語幹が **henje-** であるが、「招く」とは意味的関連性を持たないため、別語であると考えられる。「舂米」を意味する **henjembī** は、**hencembī** 「臼で搗く」の異形であろう。『大清全書』における見出し語 **hence** 「碾米。」および『増訂清文鑑』における見出し語 **hencembī** 「石臼搗」を参照されたい。


²⁴ 原書の当該箇所では、「홀콘」ではなく「홀콘」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

hūlara	후라라	(7-8a-3-8)
hūlašambi 「交換する」	---	---
hūlašame	후라샤머	(7-11a-5-5)
hūlhambi 「盜む」	---	---
hūlhafi	홀하피	(7-5b-4-8)
hūwaitabumbi 「繋がせる」	---	---
hūwaitabufi	웨타부피	(7-4b-1-7)
hūwang 「漢語黃」 (hūwang g'ai 「黃蓋」)	황	(7-1a-4-1) (7-23a-1-1)
i 「の ; で」	이	(7-2a-1-5) (7-2a-3-4) (7-2a-5-4) (7-2b-2-8) (7-2b-4-5) (7-4b-1-5) (7-6a-4-5) (7-7a-1-2) (7-7b-2-3) (7-8a-5-6) (7-8a-6-1) (7-8a-6-7) (7-8b-2-6) (7-8b-4-3) (7-8b-6-3) (7-10a-6-2) (7-10b-3-3) (7-11b-6-2) (7-12a-5-6) (7-13a-1-1) (7-13a-3-7) (7-14b-4-4) (7-16a-4-1) (7-16a-4-7) (7-17a-3-4) (7-17b-6-4) (7-18b-3-3) (7-19a-4-2) (7-20a-2-4) (7-20b-6-1) (7-21b-1-3) (7-22b-4-1) (7-22b-4-7) (7-23a-6-5) (7-23b-3-6)
i 「漢語翼」 (dzy i 「子翼」)	이	(7-4b-4-7) (7-6b-6-5)
ibembi 「前進する」	---	---
ibefi	이버피	(7-1b-3-4)
ibere	이버러	(7-13b-6-2)
ice 「新しい」	이쳐	(7-6a-3-6)
ici 「右 ; 方向」	이치	(7-6b-5-2) (7-7a-6-2)
ilan 「三」	이란	(7-16a-5-1) (7-20b-5-4) (7-21a-5-2)
ilenggu 「舌」	이렁구	(7-20b-6-2)
ilibumbi 「立たせる ; 立てる ; 止める」	---	---
ilibuhangge	이리부항거	(7-17b-4-3)
ilimbi 「立つ ; 起きる ; 止まる ; 休む」	---	---
ilicibe	이리치버	(7-15a-1-1)
ilifi	이리피	(7-13a-5-6)
ilihangge	이리항거	(7-14a-1-1)
ilimbahambi 「慣れる」	---	---
ilimbaharakū	이림바하라쿠	(7-18b-4-1)
ing 「漢語營」	잉	(7-1b-2-6) (7-2a-5-6) (7-4b-2-5) (7-6b-3-3) (7-11b-6-3) (7-13a-4-1) (7-13b-6-7) (7-14b-1-3) (7-16a-2-1) (7-17a-1-2) (7-17b-4-2)
ini 「彼の ; 彼女の」	이니	(7-2b-5-1) (7-9b-6-3) (7-12b-1-8) (7-16b-3-1) (7-21b-5-5)

injembī 「笑う」	---	---
injeme	인저머	(7-4b-6-4) (7-15a-2-3)
inu 「そうだ；是；も」	이누	(7-3a-3-2) (7-9b-3-3) (7-10b-2-2) (7-17b-4-5) (7-19a-6-1)
ioi 「漢語瑜」 (jeo ioi 「周瑜」)	우	(7-1a-2-9) (7-1b-2-5) (7-2b-1-4) (7-2b-6-5) (7-3a-2-5) (7-3b-5-1) (7-4a-3-2) (7-4a-5-4) (7-4b-3-3) (7-4b-4-2) (7-5a-4-3) (7-7a-5-5) (7-12b-1-4) (7-20b-4-4) (7-21a-1-2)
irgen 「民」	일건	(7-21b-1-8) (7-21b-3-5) (7-21b-5-1)
isambi 「集まる；髪を編む」	---	---
isaha	이사하	(7-10a-6-3)
isame	이사머	(7-22b-4-8) ²⁵
ishunde 「互いに」	잇훈더	(7-10b-3-6) (7-13b-4-6)
isimbi 「足りる；至る、及ぶ、届く」	---	---
isirakū	이시라쿠	(7-15b-6-2)
isinambi 「着く、至る」	---	---
isinafi	이시나피	(7-2a-5-9)
isiname	이시나머	(7-11b-5-3)
isinjimbi 「到来する」	---	---
isinjihabi	이신지하비	(7-1a-6-4)
jabumbi 「答える」	---	---
jabuki	자부키	(7-7a-5-1)
jabume	자부머	(7-9b-5-2) (7-10a-4-6) (7-10b-1-3)
jaburengge	자부렁거	(7-16a-6-4)
jafambi 「取る；掴む；捕らえる、逮捕する；氷が張り詰める；交わりを結ぶ」	---	---
jafafi	자파피	(7-22b-6-3)
jaka 「物；隙間；所；～たばかり」	자카	(7-10b-6-3)
jakade 「～の所に/で；～ので」	자카더	(7-1a-5-2) (7-9a-1-7) (7-9a-5-3) (7-17b-6-6) (7-20b-1-1) (7-21b-6-7) (7-22b-3-2)

²⁵ 『増訂清文鑑』における見出し語 *isambi* の漢訳は「齊集」と「編髪」であり、それぞれ「集まる」と「髪を編む」を意味する。一方、『三譯総解』(7-22b-4-8)における *isame* の *isa-* は、「帽子を編む」を意味する。当該の *isame* は、*uju de cuse moo i isame araha mahala etufi* 「머리에대로겨러밍근관쓰고」という文脈に出現している。

jakalambi 「盗み見る」	---	---
jakalam ²⁶	자카람	(7-8b-2-1)
jalbarimbi 「祈祷する」	---	---
jalbarime	잡바리며	(7-2b-3-1)
jalín 「為」	가린	(7-20b-6-5) (7-21b-1-4)
jalu 「満ちた」	자루	(7-8a-2-2)
jancuhūn 「甘い」	잔추훈	(7-2a-1-4) ²⁷
jang 「漢語張」 (jang yūn 「張允」)	장	(7-5b-6-6)
jembi 「食べる」	---	---
jeci	저치	(7-7b-5-7)
jeo (jeo ioi) (jeo ioi 「周瑜」)	조	(7-1a-2-8) (7-1b-2-4) (7-2b-1-3) (7-2b-6-4) (7-3a-2-4) (7-3b-4-5) (7-4a-3-1) (7-4a-5-3)

²⁶ 原書の当該箇所におけるハングル表記は「자카람」であり、これに対応する満洲文字表記は「」である。この語末の m は、(5-6a-6-7)の「너뭉」に対応する満洲文字表記にも見られる（王海波 2026b: 26 参照）。

当該箇所(7-8b-2-1)の jakalam は、原書において jiyang g'an jakalam tuwaci という文脈に出現している。これに対応する原書の朝鮮語訳は「蔣幹이가셔여어보니」であり、岸田（1997: 222）は「蔣幹が行ってうかがい見ると」と和訳している。また、岸田（1997: 222）はこの jakalam と tuwaci をそれぞれ「隙間ごしに」と「見ると」と和訳している。岸田（1997: 105）は、この jakalam の文語形が jakalame であると述べており、満洲語現代方言における -me が -m として現れている現象と比較している。なお、岸田（1997: 222）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所において jakalam が現れていない。

筆者の確認によれば、『同文類解』（1-28a-6-2/3）には「자카[라]며 투암비」(jakalame tuwambi)「偷看」が収録されている。また、『大清全書』には jakalabufi 「推開縫兒。」、jakarabufi 「使間。」、jakaraha 「物自有間了。」など、『増訂清文鑑』には alin jakaraha 「東方明」、jakarabumbi 「使裂開」、jakarambi 「裂開」、jakarambi 「離間」などが収録されている。これらの語は関連性があると考えられる。

表 3: 「隙間」と意味的関連性を有する jakala- および jakara-

	jakala-	jakara-
『三譯総解』	jiyang g'an jakalam tuwaci 「蔣幹이가셔여어보니」	---
『同文類解』	jakalame tuwambi 「偷看」	---
『大清全書』	jakalabufi 「推開縫兒。」	jakarabufi 「使間。」 jakaraha 「物自有間了。」
『増訂清文鑑』	---	alin jakaraha 「東方明」 jakarabumbi 「使裂開」 jakarambi 「裂開」 jakarambi 「離間」

²⁷ 『大清全書』と『増訂清文鑑』における見出し語 jancuhūn の漢訳はそれぞれ「甜。」と「甜」であり、ともに「(味が) 甘い」を意味する。一方、『三譯総解』（7-2a-1-4）における jancuhūn は、「甘んじる、甘受する、人が嫌がることを自ら進んでする、喜んでする」を意味すると考えられる。当該箇所の jancuhūn は、coohai fafun be jancuhūn i alimbi 「굴령을돌게바드마」という文脈に出現している。この二つの意味はいずれも漢語の「甘」で表すことができる。したがって、「(味が) 甘い」を表す jancuhūn を用いて「甘んじる、甘受する、人が嫌がることを自ら進んでする、喜んでする」の意を表すのは、漢語の影響を受けた結果である可能性がある。

		(7-4b-3-2) (7-4b-4-1) (7-5a-4-2) (7-7a-5-4) (7-12b-1-3) (7-20b-4-3) (7-21a-1-1) (7-9b-6-1) (7-15a-6-6) (7-15a-6-8)
(jeo lang 「周郎」)		
jergi 「階級；類い；回；凡庸な」	절기	(7-9a-4-1) (7-21a-5-5)
jeyengge 「刃のある」	저영거	(7-8b-3-2)
jilgan 「声；音」	질간	(7-8a-4-1)
jimbi 「来る」	짐비	(7-18b-1-4)
jifi	지피	(7-22b-2-2)
jihe	지허	(7-2b-2-2) (7-4a-2-5) (7-5a-2-6) (7-11b-6-5)
jihebi	지허비	(7-6a-5-1)
jing 「正に、丁度(漢語正)」	징	(7-3b-6-5) (7-17b-1-1)
jioi 「漢語苴」 (žang jioi 「穰苴」)	쥬	(7-14a-2-6)
jiyang 「漢語蔣」 (jiyang g'an 「蔣幹」)	장	(7-1b-3-2) (7-2a-2-5) (7-2a-4-1) (7-2b-1-5) (7-4a-2-3) (7-4a-4-4) (7-4a-5-1) (7-4b-6-1) (7-7a-4-1) (7-7b-1-2) (7-7b-4-4) (7-8a-2-4) (7-8b-1-3) (7-8b-5-2) (7-9a-3-1) (7-9b-1-2) (7-9b-3-4) (7-10a-5-1) (7-10b-5-1) (7-11a-4-2) (7-11b-4-1) (7-12a-1-1)
jiyangjiyūn 「漢語將軍」 ²⁸	장권	(7-13b-1-2)
jobombi 「苦勞する；憂える」	---	---
jobome	쥬보머	(7-7b-5-5) (7-17b-1-2)
jokai ²⁹	쥬캐	(7-14a-1-3)
jorimbi 「指差す；指示する」	---	---
jorime	쥬리머	(7-15a-6-4)
jorire	쥬리러	(7-15b-3-6)
jugūn 「道」	쥬군	(7-11b-4-4) (7-14b-6-3)
julergi 「南；前」	쥬릴기	(7-2a-5-2) (7-13b-4-5) (7-15a-6-2)
juleri 「南(に)；前(に)」	쥬리러	(7-8b-2-7)
julesi 「南(に)；前(に)」	쥬러시	(7-14b-2-1) (7-14b-6-1)
julgei 「昔の」	쥬캐	(7-14a-2-2)
jurumbi 「嘔吐する」	---	---
jurume	쥬루머	(7-17a-5-3)
juwe 「二」	쥬워	(7-6a-6-3) (7-7b-3-4) (7-8b-3-1) (7-13a-5-1)

²⁸ 当該語は『増訂清文鑑』では jiyanggiyūn と綴られている。『大清全書』には jiyanggiyūn と jiyangjiyūn の両綴りが収録されている。なお、『大清全書』には ilhi jiyangciyūn 「副將軍。」という語も収録されており、jiyangciyūn の語形が見られるが、誤記である可能性が高い。

²⁹ 岸田 (1997: 225) によれば、『三譯総解』原文における udu jokai は、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の対応箇所には見られず、漢文『三国志通俗演義』嘉靖本・李卓吾本にも対応する語句は存在しない。岸田は、『三譯総解』の udu jokai について、伝写過程における重複および綴りの誤りである可能性を指摘している。その根拠として、原文において直後に udu julgei が続く構成を挙げている。

kai 「指定や断定の終助詞」	캐	(7-2b-4-8) (7-3a-6-1) (7-6a-2-4) (7-6a-5-2) (7-7a-3-7) (7-11b-3-4) (7-13b-1-3) (7-14a-5-5) (7-15b-1-7) (7-18b-4-6) (7-19a-6-3) (7-21a-2-4) (7-22a-5-2) (7-22b-6-8)
kamcambi 「合併する ; 兼ねる」	---	---
kamcame ³⁰	감차머	(7-18b-6-4)
karmambi 「保護する」	---	---
karmaci	칼마치	(7-22a-4-8)
karu 「報い」	카루	(7-16a-6-3)
kenehunjembi 「疑う」	---	---
kenehunjeme	커너훈저머	(7-4b-1-1) ³¹
kenehunjerakū	커너훈저라쿠	(7-12b-6-2)
korsombi 「悔恨する ; 恨む」	---	---
korsohongge	콜소흥거	(7-20b-5-1)
kundulembi 「敬う」	쿤두럼비	(7-16b-2-3)
kunduleme	쿤두러머	(7-13a-1-2)
lang 「漢語郎」 (jeo lang 「周郎」)	랑	(7-9b-6-2) (7-15a-6-7) (7-15b-1-1)
liobei 「漢語劉備」	린베	(7-21a-1-7)
loho 「腰刀」	로호	(7-8b-3-3)
mahala 「帽子」	마하라	(7-22b-5-1)
mangga 「難しい ; 硬い ; 強い ; 高価な」	망가	(7-16b-4-5)
manggi 「～た後」	망기	(7-5a-6-3) (7-7a-3-1) (7-12a-5-2) (7-13a-2-1) (7-18a-5-4)
mao 「漢語瑁」 (ts'ai mao 「蔡瑁」)	만	(7-5b-6-5)
mederi 「海」	머더리	(7-5a-5-6)
meimeni 「各々」	메머니	(7-18b-6-2)
mentuhun 「愚かな」	먼투훈	(7-20a-2-3)
mergese 「賢者たち」	멀거서	(7-20b-3-8)
mergesei 「賢者たちの」	멀거세	(7-16a-4-5)

³⁰ 『三譯総解』の当該箇所には語幹 kamca- が見られるが、通常 kamci- と綴られる。

岸田 (1997:227) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所には kamcame が現れておらず、文脈上の言語表現も異なっている。この kamcame に対応する『三譯総解』原書の朝鮮語訳は「어우리」である。動詞「어우르다」は「一団とする」を意味し (두산동아 사서편집국 1994:1365)、『三譯総解』の当該箇所における「어우리」は、岸田 (1997:227) は「ひと所に合わせ」・「合わせ」と和訳している。

また、『大清全書』や『増訂清文鑑』には、kamca- を語幹とする動詞は収録されていない。一方、kamci- を語幹とする動詞は収録されている。『大清全書』における見出し語 kamcimbi-ha 「兼攝。附庸之附。」および『増訂清文鑑』における見出し語 kamcimbi 「合」を参照されたい。

³¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「커너훈저머」が「커너훈저머」のように見えるが、本来は「커너훈저머」と書かれていたものと考えられる。

meyen 「節；断片；一塊；隊伍」	머연	(7-1b-2-9) ³² (7-6a-6-4)
michiyan 「浅い」	미치한	(7-20a-2-5)
mimbe 「私を」	میمبه	(7-4b-4-9) (7-5a-5-1) (7-11a-3-4) (7-23b-2-1)
minde 「私に」	민터	(7-5b-5-1) (7-6a-3-5) (7-18a-1-3)
mini 「私の」	미니	(7-2b-3-3) (7-5b-4-4) (7-6a-1-3) (7-6b-3-6) (7-9a-6-1) (7-11a-5-1) (7-20a-2-2) (7-20b-5-3) (7-22a-4-3)
miyoo 「漢語廟」	모	(7-7a-1-3) (7-7b-2-8) (7-7b-4-6) (7-8a-3-3)
monggo 「蒙古」	몽고	(7-4a-4-1) (7-7a-5-6) (7-12a-3-2)
moo 「樹木；木材；棒」	모	(7-1a-4-5) (7-22b-4-6)
morilambi 「乗馬する」	---	---
morilafi	모리라피	(7-13a-5-3)
morin 「馬；午」	모린	(7-7a-6-5) (7-13a-3-1) (7-19a-5-5)
mudan 「音調；回；湾曲；回り道」	무단	(7-4b-1-4) (7-13b-6-5)
muheren 「輪；車輪；耳輪」	무허런	(7-3b-2-4) (7-19a-2-5) (7-20a-5-4)
mujilen 「心」	무지런	(7-4a-6-3) (7-7b-5-4) (7-11a-1-5) (7-11b-1-3) (7-12b-6-4) (7-14a-5-3)
muke 「水」	무커	(7-5a-5-7) (7-16b-1-2) (7-17a-4-1) (7-18b-1-1) (7-19b-2-1)
mukei 「水の」	무케	(7-2a-5-5) (7-14b-1-2) (7-17a-1-1) (7-18a-2-1)
mukūn 「同族；群れ」	무쿤	(7-21b-6-2) (7-22a-4-4)
mungga 「塚(丘/墳丘)」 ³³	몽가	(7-22b-3-1)
mutebumbi 「実現させる」	---	---
mutebuhekū	무터부허쿠	(7-1b-4-4) (7-1b-6-5)
mutebuhekūnge	무터부허쿱거	(7-6a-2-1)
muteburenge	무터부렁거	(7-2b-4-2)
mutembi 「できる」	---	---
mutehe	무터히	(7-21a-4-3)

³² 当該箇所の meyen は、『三譯総解』原書において emu meyen という文脈に出現している。これに対応する原書の朝鮮語訳は「흔지위」である。「지위」については、南廣祐 (1997: 1273) は現代語で「번」としている。高麗語言研究院 (2006: 529) は現代語で「번」・「회 (回)」と訳しており、さらに「디위」の形式もあることを指摘している。すなわち、回数を数える単位の「回」・「度」の意味である (두산동아 사서편집국 1994: 920, 2164 参照)。岸田 (1997: 219) も、この朝鮮語訳「흔지위」を日本語で「一度」と訳している。また、岸田 (1997: 219) によれば、漢文『三国志通俗演義』嘉靖本・李卓吾本における漢文および『満漢合璧三国志』における漢文はいずれも「一遭」である。しかし、emu meyen は通常「一度」の意味を有しない。なお、岸田 (1997: 219) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所における満文の語形はいずれも emu mudan である。

³³ 当該語は『増訂清文鑑』では munggan と綴られている。見出し語 munggan 「邱陵」を参照されたい。一方、『大清全書』では mungga と綴られている。見出し語 mungga 「岡陵。山陵。丘隅。坡岡。」を参照されたい。『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、mungga に対応する形で現れている。なお、当該の mungga は『三譯総解』では mungga jakade という文脈に出現しているが、岸田 (1997: 229) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の対応箇所には、当該の mungga jakade に対応する語句は見られない。

mutembihe	무덤비허	(7-20a-1-3)
na 「地」	나	(7-2b-2-7)
narhūn 「細い、細かい」	날훈	(7-6b-3-7)
nekgeri 「薄い」 ³⁴	넉거리	(7-10a-2-1)
nenembi 「先行する」	---	---
nenehe 「先の」	너너허	(7-12a-2-2)
neneme 「先に」	너너머	(7-5b-1-1) (7-12a-1-3) (7-21a-1-4)
ni 「疑問・感動の終助詞」	니	(7-10b-2-4)
ni 「の ; で」	니	(7-1a-2-4) (7-2a-5-1) (7-2a-5-7) (7-11b-4-8) (7-13a-3-4) (7-15a-3-2) (7-15a-6-1) (7-16a-2-7) (7-16a-6-2) (7-17a-1-3) (7-17b-2-2) (7-18a-6-5) (7-19b-5-2) (7-20b-3-5) (7-20b-6-4) (7-21a-5-4) (7-22a-1-5) (7-22a-3-2) (7-22b-1-6)
nikai 「終助詞 ni + 終助詞 kai」	니캐	(7-15a-5-4)
nikembi 「もたれる」	---	---
nikeme	니커머	(7-13b-4-3)
nimedembi 「一緒に病む」 ³⁵	니머덤비	(7-17a-1-8)
nimeku 「病気」	니머쿠	(7-18a-3-1) (7-18b-4-4)
nimembi 「病む ; 痛む」	---	---
nimeme	니머머	(7-17a-5-4)
ning 「漢語寧」 (g'an ning 「甘寧」)	닝	(7-1a-2-7)
ninggun 「六」	닝군	(7-16a-5-3)
nirugan 「絵」	니루간	(7-16a-4-8)
niyalma 「人」	날마	(7-2a-6-2) (7-2b-4-4) (7-3b-5-7) (7-4b-2-2) (7-7b-4-1) (7-8b-2-4) (7-8b-6-4) (7-9a-2-1) (7-9a-3-5) (7-9a-4-2) (7-9a-5-5) (7-9b-4-3) (7-10a-4-4) (7-18b-3-5) (7-19a-5-1) (7-19a-6-4) (7-20b-1-4) (7-21b-4-6) (7-22b-3-4)

³⁴ 当該語 nekgeri に対応する『三譯総解』原書の朝鮮語訳は、「얇게」(薄く)である。nekgeri の語形は『大清全書』や『増訂清文鑑』には収録されていない。岸田 (1997: 223) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所には同語が現れておらず、文脈上の言語表現も異なっている。

岸田 (1997: 103) は、nekgeri を規範語の nekeliyen と比較しており、l と r の混同の一例であると指摘しているが、nekgeri における kg の発音などについては特に言及していない。

筆者の推測では、nekgeri は /nekkeri/ のような発音を反映している可能性があり、すなわち kg は長子音 /kk/ を表記したものである可能性がある。この /nekkeri/ は満洲語方言における発音である可能性は否定できない。満洲語方言において k の長子音化が認められる例は他にも存在する。例えば、保井 (1943: 20-22) が記録した黒河の瓊瑣満洲語には chokko~chok-ko 「雛」、mukke 「水」、sarak-ka 「箸」など、kk または k-k を含む綴りが見られる。一方、王慶豊 (2005: 14) は黒河満洲語の「水」を mu'kə と記録し、当該子音は「緊喉輔音」と述べている。この「緊喉輔音」については、原文では「发辅音时由于喉头受到阻碍而发出的音」と説明している。

³⁵ 岸田 (1997: 225) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも nimetembi である。また、岸田 (1997: 88) によれば、当該語幹が『増訂清文鑑』・『大清全書』・『満漢同文全書』における形式はいずれも nimete- である。

niyalmai 「人の」	날매	(7-18a-3-4)
niyambi 「朽ちる、腐る」	---	---
niyaha	냐하	(7-5a-6-2)
nofi 「人の助数詞」	노피	(7-13a-5-2)
nure 「酒(粟や黍などを原料として醸造した酒)」	누리	(7-13a-1-3) (7-16a-2-4)
obumbi 「する」	오븀비	(7-10a-2-2)
obufi	오부피	(7-18a-3-8)
obume	오부머	(7-6a-6-5)
obure	오부러	(7-21a-5-7)
oilo 「表面」	외로	(7-19a-4-3)
okdojimbī 「迎えに来る」	---	---
okdojihakū ³⁶	옥도지하쿠	(7-4a-6-1)
okdombi 「迎える」	---	---
okdoko ³⁷	옥도코	(7-9a-2-4)
okdome	옥도머	(7-12a-4-2)
olhombi 「乾く ; 恐れる」	올홈비	(7-11a-4-1) (7-19b-2-7)
olho	올호	(7-21b-3-4)
olhon 「乾いた」	올혼	(7-13a-3-6)
ombi 「なる」	옴비	(7-3b-6-3) (7-19a-6-2) (7-21a-2-3) (7-22a-5-1) (7-23b-1-4) (7-23b-2-5)
oci	오치	(7-1b-6-6) (7-14a-5-1)
ofi	오피	(7-1b-4-5) (7-4a-3-4) (7-12b-1-7) (7-12b-4-6) (7-17a-4-4) (7-18b-4-2)
oho	오호	(7-23b-4-5)
ojorakū	오조라쿠	(7-1b-1-3)
omibumbi 「飲ませる」	---	---
omibufi	오미부피	(7-5b-2-4)
omibume	오미부머	(7-13a-1-4)
omicambi 「一緒に飲む」	---	---
omicame	오미차머	(7-16a-3-2)
onco 「横に広い」	온초	(7-19a-4-4)
onggombi 「忘れる」	---	---
onggoho	웅고호	(7-10b-1-1) (7-10b-2-3)
orin 「二十」	오린	(7-14b-2-4)

³⁶ 当該語の語幹は、『大清全書』と『増訂清文鑑』ではそれぞれ okdoji- と okdonji- と綴られている。『大清全書』における見出し語 okdojimbī 「來迎。」、okdoju 「令人來接。來迎。」および『増訂清文鑑』における見出し語 okdonjimbī 「來迎」を参照されたい。なお、岸田 (1997: 220) によれば、『滿文三国志』および『滿漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも okdonjihakū である。『大清全書』における okdojimbī, okdoju および『三譯総解』における okdojihakū は、それぞれ okdonjimbī, okdonju, okdonjihakū の誤記である可能性が否定できない。

³⁷ 動詞語幹 okdo- に完了接辞が付加される形式は、『大清全書』では okdoko と綴られている。見出し語 okdome-ko-mbi 「迎接之迎。」を参照されたい。これに対し、Зарков (1875: 124) は、okdo- につく完了接辞を -ho として記述している。一方、『三譯総解』の当該箇所においては、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも okdoko に対応する形で現れている。

pang 「漢語龐」 (pang tung 「龐統」) ³⁸	팡	(7-9a-6-3)
pangtung 「漢語龐統」	팡퉁	(7-2b-6-3) (7-3a-4-1) (7-9b-3-1) (7-9b-5-1) (7-10b-1-2) (7-11a-3-1) (7-11a-6-2) (7-11b-4-3) (7-12a-3-5) (7-12a-6-1) (7-13a-3-3) (7-13a-6-2) (7-13b-3-1) (7-14a-4-1) (7-14a-6-4) (7-15a-2-1) (7-15b-5-1) (7-16a-2-6) (7-16a-6-1) (7-16b-2-4) (7-16b-6-2) (7-17b-2-1) (7-17b-3-1) (7-18a-1-1) (7-18a-6-1) (7-20a-1-4) (7-20b-2-4) (7-21a-6-2) (7-21b-5-4) (7-22a-2-3) (7-22a-6-2) (7-22b-1-1) (7-22b-5-3) (7-23b-3-4)
sacimbi 「斬る；鋤く」	---	---
sacimbihe	사침비허	(7-6a-6-6)
sain 「良い」	센	(7-12b-3-1) (7-19b-5-4)
saisa 「賢者」	새사	(7-10a-6-1) (7-20b-3-7)
saišambi 「賞賛する」	---	---
saišara	새샤라	(7-14a-4-4)
sambi 「知る」	---	---
saha	사하	(7-20a-2-6)
samsimbi 「分散する」	삼심비	(7-3a-5-8)
se 「歳；年齢」	서	(7-12b-1-5)
sefu 「教師(漢語師傅)」	스푸	(7-15b-3-3)
sektembi 「敷く」	---	---
sektehe	석터허	(7-19a-4-6)
sele 「鉄」	서러	(7-3b-2-3) (7-3b-2-6) (7-19a-2-4) (7-19a-3-2) (7-20a-4-6) (7-20a-6-2)
selgiyembi 「伝令する、布令する」	---	---
selgiyefi	설겨피	(7-20a-4-3)
sembi 「言う」	슴비	(7-1a-3-6) (7-17a-2-4) (7-21b-2-2)
seci	스치	(7-3b-4-4) (7-5a-5-5) (7-6b-2-1)
sefi	스피	(7-2b-4-9) (7-8b-6-5) (7-15a-5-5)
sehe	스허	(7-2a-3-6)
seme	스머	(7-1a-5-4) (7-2b-1-1) (7-2b-2-3) (7-2b-5-5) (7-3b-6-4) (7-4a-2-6) (7-4a-6-2) (7-5a-1-6) (7-5a-2-5) (7-5a-3-4) (7-5b-1-5) (7-6a-5-7) (7-6b-4-5) (7-7b-3-3) (7-9a-1-3) (7-9b-6-7) (7-10b-2-5) (7-14a-3-2) (7-15a-4-1) (7-19b-2-5)
semeo	스몐	(7-9b-2-6)

³⁸ 『三譯総解』における「龐統」は通常「팡퉁」pangtung であり、分かれ書きされていない。この箇所
の pang は hala pang gebu tung (意味は「姓龐名統」) に出現しているため、分かれ書きされている。

sere	스리	(7-7a-5-2) (7-9a-1-6) (7-19a-5-3) (7-22b-2-6)
seng 「漢語生」 (siyan seng 「先生」)	승	(7-9b-2-4) (7-13b-2-3) (7-19b-5-1) (7-21a-3-4) (7-22a-1-4) (7-15b-2-4) ³⁹
seolembi 「思慮する」	---	---
seoleme	쇼리며	(7-20a-3-1)
serebumbi 「覚らせる ; 覚られる」	---	---
serebuhe	서리부허	(7-6b-4-2)
si 「あなた」	시	(7-4b-4-8) (7-5a-4-5) (7-5b-4-1) (7-6a-2-3) (7-6a-4-1) (7-9b-2-1) (7-9b-4-1) (7-10a-4-2) (7-10a-6-7) (7-11a-1-1) (7-15b-1-2) (7-23a-4-1)
silhi 「胆嚢」	실히	(7-22b-6-6)
silkabumbi 「ずるく立ち回る」	---	---
silkabuha	실카부하	(7-3b-5-6)
simbe 「あなたを」	심버	(7-5a-1-1) (7-5b-2-1) (7-6a-5-4) (7-6b-1-2) (7-6b-3-2) (7-7a-3-2) (7-10a-5-3)
sindambi 「置く ; 放つ」	---	---
sindahabi	신다하비	(7-14b-6-5)
sindame	신다머	(7-13b-6-6)
sindara	신다라	(7-23a-5-5)
sini 「あなたの」	시니	(7-10b-5-6) (7-13b-3-3) (7-17b-3-3) (7-22b-6-5)
siyan 「漢語先」 (siyan seng 「先生」)	산	(7-9b-2-3) (7-13b-2-2) (7-15b-2-3) (7-19b-4-8) (7-21a-3-3) (7-22a-1-3)
sokdombi 「酔う」	---	---
sokdotolo ⁴⁰	속도토로	(7-5b-2-3)
soktombi 「酔う」	---	---
soktoho	속토호	(7-16b-3-4)
somimbi 「隠す ; 埋葬する」	---	---
somifi	소미피	(7-14b-5-5)
sumbi 「解く ; 脱ぐ ; (他者の服を)脱がせる ; 門を開ける」	---	---
su	수	(7-9a-1-5)

³⁹ 岸田 (1997: 154-263) は、『三譯総解』・『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の対校表を作成している。当該の対校表では、三書間に差異が認められる箇所ごとに通し番号が付されているが、225 頁のこの箇所では独立した番号が与えられておらず、二つの差異 (bucembi kai – bucembikai – bucembikai および siyan seng – siyan seng – siyan seng) がともに 576 号として扱われている。

⁴⁰ 当該語の語幹は、『大清全書』および『増訂清文鑑』のいずれにおいても sokto- と綴られている。しかし、『三譯総解』の当該箇所(7-5b-2-3)では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも、sokdotolo に対応する形で現れている。岸田 (1997: 201) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形は soktotolo である。なお、『三譯総解』(3-26b-3-2), (7-16b-3-4)の語形はそれぞれ soktohongge と soktoho であり、いずれも語幹が sokto- である。

sufi	수피	(7-9a-2-3)
sun 「漢語孫」 (sun u 「吳」)	순	(7-8b-4-1) (7-14a-2-3) (7-16a-3-3)
susai 「五十」	수새	(7-1a-4-4) (7-19a-1-3)
suwe 「あなたたち」	쉬	(7-23a-6-1)
sy 「漢語士」 ⁴¹ (sy yowen 「士元」)	스	(7-9a-6-8)
šahūrun 「寒い」	샤후룬	(7-4b-6-3) (7-8a-1-4)
šelemi 「喜捨する ; 命を捨てる」	---	---
šelefi	셔리피	(7-1b-5-4)
šumilembi 「深く入る」	---	---
šumileme 「深く」 ⁴²	슈미러머	(7-1b-1-1)
šungkumbi 「凹む」	---	---
šungkure	슝쿠리	(7-19b-2-3)
tacibumbi 「教える」	---	---
tacibuha	타치부하	(7-2b-6-1)
tacibure	타치부러	(7-13b-2-5) (7-15b-4-1)
taifin 「漢語太平」	태핀	(7-18a-3-7)
taka 「暫く」	타카	(7-7a-1-6)
takūrambi 「遣わす」	---	---
takūra	타쿠라	(7-7b-3-2)
takūrahabi	타쿠라하비	(7-1a-5-8)
tantambi 「打つ」	---	---
tantara	탄타라	(7-1a-5-1)
tatambi 「引く ; 宿る」	---	---
tatame	타타머	(7-22b-6-2)

⁴¹ 『對音輯字』(上巻第7葉 a 面)では、漢字「士」に対応する満洲文字は si である。一方、『三譯総解』では、「士元」の「士」は満洲文字表記・ハングル表記のいずれも sy に対応する形で現れている。

⁴² 岸田 (1997: 88)によれば、当該語の語幹は『大清全書』および『満漢同文全書』では šumila- である。また、岸田 (1997: 219)によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも šumilame である。

一方、筆者の確認によれば、清代文献には当該語幹の šumile- の出現例はないわけではない。例えば、『満文原檔』には有圈点の šumileme の例がある(画像は馮明珠 2006: 258 最右行参照)。

また、『新満漢大詞典』(胡増益 2020)が引用している清代文献にも šumileme の出現例がある。以下に例を挙げる。なお、見出し語および例文におけるローマ字表記は『新満漢大詞典』の原表記に従い、メレンドルフ式には改めていない。

[1] 見出し語 buhiyeme kenehunzhembi に、『上諭八旗』から例文 mini guunin tebuhe baita yabure be kemuni shumileme same muterakuu, buhiyere kenehunzhere guunin be tebumbio を引用している(186頁)。

[2] 見出し語 dahame (261頁)、nendefi yabumbi (911頁)、sebzhen (1004頁)に、『上諭八旗』から例文 bi baita tome beye nendefi yabumbime, geli sain yaburede umesi sebzhen, giyan be dahara de umesi elhe be shumileme sahabi (261, 911, 1004頁)。なお、911頁の yaburede は 261頁および 1004頁では yabure de と分かち書きされている。

[3] 見出し語 sihambi¹に、『平定金川方略』から例文 mohoho huulha be sihara de salirakuu be shumileme sambime を引用している(1065頁)。

te 「今」	터	(7-1a-6-1) (7-1b-5-1) (7-6a-2-5) (7-6b-1-1) (7-9b-5-3) (7-11b-1-5) (7-12b-1-2) (7-15a-5-1) (7-18b-5-1)
tebumbi 「座らせる ; 住ませる ; 職に就かせる ; 駐屯させる ; 盛る ; 植える ; 納棺する ; 酒を作る」	---	---
tebufi	터부피	(7-7b-3-1)
tecembi 「一緒に座る」	---	---
tecehe	터쳐히	(7-12a-5-7)
teike 「今し方」	테커	(7-16b-6-4)
tembi 「座る ; 住む ; 職に就く ; 駐屯する ; 沈殿する ; 水が溜まる」	---	---
tefi	터피	(7-2a-4-7) (7-4a-4-3) (7-7b-5-3)
tehe	터히	(7-19b-1-3) (7-19b-4-2)
tehebi	터허비	(7-22a-2-2) (7-22a-3-5)
teki	터키	(7-22b-2-5)
teme	터머	(7-18b-3-8)
tere 「その ; それ ; その人 ; あの ; あれ ; あの人」	터러	(7-8a-1-1) (7-9a-1-8) (7-9a-3-4) (7-9a-5-4) (7-17a-3-1) (7-19b-3-1) (7-23b-3-1)
tereci 「それ/あれ/彼/彼女より ; それから ; さて ; やがて」	터러치	(7-11b-3-5)
terei 「そ/あの人の ; その」	터레	(7-3b-3-4)
teyen 「休み」	터연	(7-18b-2-2)
tohobumbi 「馬を装備させる」	---	---
tohobufi	토호부피	(7-13a-3-2)
tokdobumbi 「決める ; 平定する」	---	---
tokdobuhabi ⁴³	독도부하비	(7-3a-3-5)
tolombi 「数える」	---	---
toloci	토로치	(7-17a-5-6)
tondo 「まっすぐな ; 公平な ; 忠誠な」	톤도	(7-10a-1-1)
towa 「火」 ⁴⁴	토와	(7-3a-2-1) (7-3a-5-1) (7-3b-1-3) (7-3b-4-1) (7-23a-5-4)
ts'ai 「漢語蔡」 (ts'ai dzung 「蔡中」) (ts'ai ho 「蔡和」) (ts'ai mao 「蔡瑁」)	채	(7-6a-3-3) (7-6a-3-1) (7-5b-6-4)
ts'oo 「漢語曹」	초	

⁴³ 王海波 (2026a: 33) の脚注 36 を参照されたい。

⁴⁴ 王海波 (2026a: 34) の脚注 37 を参照されたい。

(ts'oo gung 「曹公」)		(7-3a-1-3)
ts'oots'oo 「漢語曹操」	초초	(7-1a-2-1) (7-2a-2-1) (7-3b-5-5) (7-5a-5-2) (7-5b-6-1) (7-6b-2-3) (7-7a-2-2) (7-11a-1-2) (7-11b-6-1) (7-12a-1-4) (7-12a-3-1) (7-12b-6-1) (7-13a-2-2) (7-13b-1-4) (7-14a-6-1) (7-15b-2-1) (7-16a-1-1) (7-16b-2-1) (7-16b-5-1) (7-17a-3-3) (7-17a-6-3) (7-17b-6-1) (7-18a-5-1) (7-19b-4-1) (7-20a-3-3) (7-21a-3-1) (7-21b-4-1) (7-22a-1-1) (7-22a-5-3) (7-22b-1-2) (7-23b-1-1)
tubabe 「そこ/あそこに;そこ/あそこで」	투바버	(7-3b-6-6)
tucibumbi 「出す」	---	---
tucibuki	투치부키	(7-21b-2-1)
tucimbi 「出る」	---	---
tucifi	투치피	(7-8a-3-2) (7-12a-4-3)
tucire	투치러	(7-13b-5-1)
tukiyembi 「持ち上げる;担ぐ;挙用する;称揚する」	---	---
tukiyehe	투켜허	(7-9a-6-6)
tumen 「万」	투먼	(7-21b-1-7)
tung 「漢字統」 (pang tung 「龐統」) ⁴⁵	퉁	(7-9a-6-5)
tuttu 「そのように;あのように」	툇투	(7-4a-3-3) (7-4b-5-2) (7-5a-3-2) (7-18b-4-3)
tuwakiyambi 「見張る」	---	---
tuwakiyame	튀카머	(7-9b-4-7) (7-10a-2-5)
tuwambi 「見る」	---	---
tuwa	투와	(7-20a-3-2)
tuwaci	투와치	(7-8a-4-5) (7-8b-2-2) (7-9a-3-3) (7-10b-6-1) (7-14b-2-3) (7-15a-5-2) (7-17a-1-6) (7-20b-4-2)
tuwafi	투와피	(7-15a-2-2)
tuwame	투와머	(7-13b-4-7)
tuwara	투와라	(7-13a-5-7)
tuwanambi 「見に行く」	---	---
tuwaname	투와나머	(7-14b-1-5) (7-13a-4-3)
u 「漢語呉」 (dergi u gurun 「東呉国」) (sun u 「孫呉」)	우	(7-19b-6-2) (7-8b-4-2) (7-14a-2-4) (7-16a-3-4)
ubade 「ここに/で」	우바더	(7-10a-2-6)

⁴⁵ 『三譯総解』における「龐統」は通常「팡퉁」pangtung であり、分ち書きされていない。この箇所の tung は hala pang gebu tung (意味は「姓龐名統」) に出現しているため、分ち書きされている。

udu 「幾つ；いくら～(だとて)」	우두	(7-8a-5-4) (7-14a-1-2) (7-14a-2-1) (7-19b-1-5)
uju 「頭；第一」	우주	(7-19a-2-1) (7-22b-4-3)
ukambi 「逃げる」	---	---
ukame	우카머	(7-5b-5-3)
uksun 「宗室；宗族」	옥순	(7-21b-6-1)
ulebumbi 「食物を与える、食べさせる；筆を墨に浸す；荒縫いさせる」	---	---
ulebume	우리부머	(7-13a-1-6)
ulimbi 「穴に通す」	---	---
ulifi	우리피	(7-8b-3-7)
ulime	우리머	(7-19a-3-4) (7-20a-6-4)
ume 「否定命令標識」	우머	(7-15b-4-3) (7-21b-3-7)
uncehen 「尾」	운쳐헌	(7-19a-2-2)
undehen 「板；割竹」	운더헌	(7-19a-4-5)
unenggi 「誠；事実；誠実な；本当の」	우녕기	(7-11b-1-1) (7-13a-6-4) (7-14a-5-2) (7-21a-3-5)
unggimbi 「遣わす」	---	---
unggihe	웅기허	(7-2b-1-2)
unnakū 「必ず」 ⁴⁶	운나쿠	(7-11b-3-2)
urgunjembi 「喜ぶ」	---	---
urgunjehē	울군저허	(7-20b-2-3)
urgunjeme	울군저머	(7-2a-2-3) (7-4a-3-6) (7-14a-6-3) (7-16a-1-3)
urhun 「指一本の幅」	울훈	(7-20b-5-5)
urse 「衆人」	울서	(7-6b-5-4) (7-7a-6-4)
urunakū 「必ず」	우루나쿠	(7-8b-5-6) (7-15b-1-5)
usiha 「星」	우시하	(7-8a-2-1)
uthai 「すぐに；即ち」	운해	(7-2a-2-4) (7-9a-1-1) (7-11b-1-6) (7-16b-1-1) (7-20a-4-1)
uttu 「このように」	운투	(7-2b-5-4)
wacihiyambi 「完成する」	---	---

⁴⁶ 当該語 unnakū に対応する『三譯総解』原書の朝鮮語訳は「반드시」(必ず)である。unnakū の語形は、『大清全書』や『増訂清文鑑』には収録されていない。岸田 (1997: 224) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所には同語が現れていない。さらに、岸田 (1997: 107) は unnakū を規範語の urunakū および烏拉熙春 (1992: 250) が記録した満洲語方言における同源語 unaq'ū と比較しており、unnakū という語形は、口語形を反映したものである可能性を提示している。筆者の推測では、unnakū は誤記でないとすれば、urunakū > *urnakū > unnakū のような音変化の結果である可能性がある。

また、『三譯総解』(7-8b-5-6)の urunakū に対応する『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所にも、同語が現れていない (岸田 1997: 222)。

なお、『三譯総解』(7-15b-1-5)の urunakū に対応する『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の形式については、岸田 (1997) は言及していないものの、筆者の確認によれば、両書ともに urunakū の形を示している。

以上より、『三譯総解 (第七)』における当該語は、編纂者が自ら書き加えた部分では urunakū および unnakū の両綴りが併存する一方、『満文三国志』に由来する部分では原書に従い urunakū と綴られているということがわかる。


wacihiyame 「尽く」	와치하머	(7-3b-1-2) (7-12a-2-5) (7-23a-5-2)
wajimbi 「終わる」	---	---
wajiha	와지하	(7-12a-5-1) (7-13a-1-7)
wajirakū	와지라쿠	(7-17a-6-1)
waka 「～ではない；非」	와카	(7-9a-4-3) (7-9b-2-5) (7-21b-1-5)
wakalambi 「答める」	---	---
wakalara	와카라라	(7-14a-4-5)
wambi 「殺す」	왓비	(7-21b-5-3)
waha	와하	(7-6a-1-2)
wara	와라	(7-21b-3-8)
wargi 「西」	왈기	(7-6b-6-7) (7-7b-2-1)
we 「誰」	워	(7-1b-1-4)
wehe 「石」	워허	(7-5a-6-1)
weihu 「丸木舟」	웨후	(7-2a-4-5) (7-4b-1-2)
weile 「罪；事」	웨리	(7-1b-6-3) (7-6a-1-5) (7-6b-4-1) (7-10b-4-2) (7-11b-3-1) (7-12a-2-3)
werimbi 「残す」	---	---
werihe	워리허	(7-7b-4-3)
wesihun 「上に；東に；高貴な」	워시훈	(7-9b-6-6) (7-10a-1-4) (7-21b-1-2)
wesimbumbi 「上奏する」	---	---
wesimbufi	워심부피	(7-21a-5-1)
yabumbi 「行く、歩く；行う」	---	---
yabuci	야부치	(7-19a-5-6)
yabure	야부리	(7-14b-6-2)
yali 「肉」	야리	(7-23a-1-3)
yalubumbi 「騎乗させる」	---	---
yalubufi	야루부피	(7-7b-1-5)
yamji 「晩」	얌지	(7-6b-2-5) (7-15b-1-3)
yargiyan 「本当の」	얌간	(7-12b-6-3) (7-15a-5-3)
yaya 「すべての、諸々の」	야야	(7-7a-2-4)

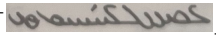
yongkiyambi 「完備する」	---	---
yongkiyakakū (yongkiyan'akū) ⁴⁷	용칸아쿠	(7-17b-5-3)

⁴⁷『三譯総解』(7-17b-5-3)における yongkiyakakū 「용칸아쿠」には、二つの問題点がある。また、岸田 (1997: 225-226) はこの2点の問題を指摘しているが、その指摘にもなお検討すべき点がある。

まず、『三譯総解』における yongkiyakakū 「용칸아쿠」に関する二点の問題について検討する。

[1] 完了接辞の問題。yongkiya- に付く完了接辞は通常 -ha であり、-ka ではない。『大清全書』・『増訂清文鑑』のいずれにおいても、語幹 yongkiya- に付く完了接辞は -ha である。『大清全書』における見出し語 yongkiyaha 「全備。兼。」および『増訂清文鑑』の見出し語 hūhuri 「福」の説明文 eiten sain yooni yongkiyaha be hūhuri sembi など参照されたい (岸田 1997: 226 も『大清全書』における語形に言及している)。また、『満露辞典』(Зарапов 1875: 199) においても、語幹 yongkiya- に付く完了接辞は、-ha である。なお、岸田 (1997: 225) によれば、『三譯総解』(7-17b-5-3/4)の満洲文字表記の yongkiyakakū bi に対応する『満洲三国志』および『満漢合璧三国志』の当該箇所の語形は、いずれも yongkiyahakūbi である。

[2] ハングル表記の問題。『三譯総解』における満洲文字「」(yongkiyakakū) は、ハングルでは「용카카쿠」と表記されると考えられる。しかし、『三譯総解』原書のハングル表記は「용칸아쿠」である。

次に、岸田の指摘に内在する問題点について検討する。岸田 (1997: 226) は、『三譯総解』原書のハングル表記「용칸아쿠 비」が満洲文字の「」に対応するとし、これを yongkiyanakū bi (yongkiyan+akū+bi; 全備でないのである) と解釈している。

しかしながら、岸田の想定する yongkiyanakū bi は、ハングル表記「용칸아쿠 비」には対応しない。yongkiyanakū は yongkiyan akū のように分かち書きされていないため、yongkiyanakū (下線は筆者による) では、下線部の n と a は同一音節内に属する。それに対し、ハングル表記「용칸아쿠」では、「ㄴ」と後続の「아」が音節境界線を跨いでいる。


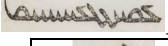
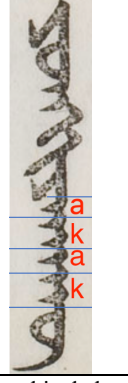
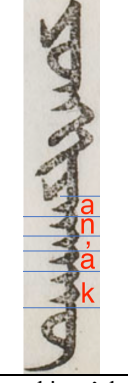
ハングル表記の「용칸아쿠」の問題について、次のように解釈することができる。『三譯総解』原書の満洲文字「」は yongkiyakakū と読まれると考えられる。これは次表の A のような分析に相当する。この場合、yongkiy と ū の間に見られる六画は、a (1画) + k (2画) + a (1画) + k (2画) と分析される。一方、これらの六画を、次表の B のように、a (1画) + n (1画) + 音節区切り記号 (1画) + a (1画) + k (2画) と解釈すれば、これは yongkiyan'akū に相当し、ハングル表記「용칸아쿠」と対応することになる。

表4: 「」の理論上の二つの分析方法

	
yongkiyakakū	yongkiyan'akū
A	B

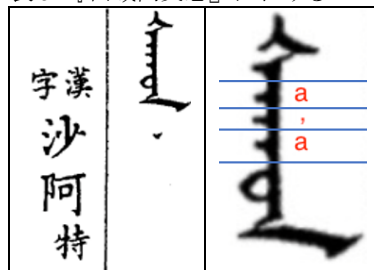
もっとも、この語は実際には B のようには発音されず、A のように解されるべきものである (さらに前述のとおり、完了接辞は -ka ではなく -ha である)。また、『三譯総解』の編纂者が満洲文字における音節区切り記号を明確に意識し、それに基づいて B のような分析を行ったことを示す直接的証拠は確認されない。したがって、B はあくまで『三譯総解』に見られる「용칸아쿠」という誤記の成立要因の一つとして仮説的に提示するものである。

音節区切り記号の例はほかにもある。たとえば、『西域同文志』(四庫全書版 12-36a) には ša'at 「沙阿特」の例がある (次表参照)。

(次頁へ続く)



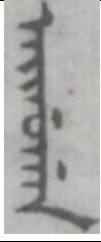
(前頁続き)

表 5 : 『西域同文志』における sa'at



Sulfa によれば、清代文献では、人名・地名などにおいて音節区切り記号 (Sulfa の用語では「分隔符」) が使用される例がある。地名の例としては、『翻訳童話』には「禧恩」に対応する満文 hi'en の例、満文家譜には「観音保」に対応する満文 guwan'imboo の例がある。地名の例としては、『對音輯字』には「愛烏罕」に対応する満文 ai'ugan (「アフガン」の意) の例がある。Sulfa は、いわゆる分隔符の本質は元音の字冠であると指摘している。また、于溪 (私信) は、北京順義文保所所蔵の道光年間の満文碑文に、he'ing 「和瑛」の例が見られることを指摘している。

表 6 : 音節区切り記号 (分隔符) の他の例

		
hi'en	guwan'imboo	ai'ugan
「禧恩」	「観音保」	「愛烏罕」

シベ語の文献にも分隔符の使用例がある。たとえば Stary (1999: 250) は ju'i 「主義」(ju 「子ども」と区別される) を挙げている (Stary の用語では a sign of separation)。

早田輝洋 (2009: 135-137) は、『清文鑑』における uI nimaXa と『増訂清文鑑』における ui nimaXa の違いを指摘しており、『清文補彙』における「ui nimaXa 文鯨魚。舊曰 uI nimaXa 今改此」にも言及している (ローマ字は早田輝洋 2009 原文表記)。また、早田輝洋 (2009: 135) は羽田 (1937: 279) の Kuu を kuil と表記している。早田輝洋はこの分析に音節区切り記号 (分隔符) の概念には触れていないが、I が独立した音節であることには言及している。筆者は、この I はすなわち 'i (音節区切り記号/分隔符+i) であると考えている。

なお、河内 (2014: 1120; 2018: 1148) は、『清文補彙』の上記記述を引用する際に「舊曰 uai nimaha 今改此」と記しており、ローマ字転写において u'i nimaha の u'i を uai と表記し、u の下の画を音節区切り記号 (分隔符) として認識していない。

yooni 「すべて」	윤니	(7-18a-4-3) (7-22a-4-6)
yowen 「漢語元」 ⁴⁸ (sy yowen 「土元」)	원	(7-9b-1-1)
yuwan 「漢語原」 (dzung yuwan 「中原」)	완	(7-18b-3-2)

⁴⁸『對音輯字』(下巻第36葉)では、漢字「土」(b面)に対応する満洲文字はyuwan(a面)である。

一方、『三譯総解』における「元」には二通りの形式が見られる。

[1]yuwan「완」。「元儉」の「元」(2-17a-2-3)。「元直」の「元」(8-3a-4-3),(8-6b-2-5)。「元穎」の「元」(8-19b-2-3)。

[2]yowen「원」。「土元」の「元」(7-9b-1-1)。

上記の[2]について『三譯総解』の編纂者が満洲文字でyowenと記したのは、本来yuwanとすべきところ、yuの右側の付点をwanの右側にあるものと誤認したことに起因すると考えられる。また、ハングル「원」も、この誤った満洲文字表記yowenに基づいて記されたものであると考えられる。岸田(1997:262)もこの点について言及しており、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』の対応箇所の語形はいずれもyuwanであると指摘している。

以上で言及した『三譯総解』における「元」の満洲文字表記・ハングル表記および『對音輯字』・『満漢合璧三国志』における「元」の満洲文字表記は、次表のとおりである。

表7:『三譯総解』における「元」の満洲文字表記・ハングル表記
および『對音輯字』・『満漢合璧三国志』における「元」の満洲文字表記

三譯総解	[1]yuwan「완」				
		「元儉」の「元」 (2-17a-2-3)	「元直」の「元」 (8-3a-4-3)	「元直」の「元」 (8-6b-2-5)	「元穎」の「元」 (8-19b-2-3)
	[2]yowen「원」				
		「土元」の「元」(7-9b-1-1)			
對音輯字	yuwan				
		「元」(下-36a)			
満漢合璧三国志	yuwan				
		「土元」の「元」(10-38a-5-4)			

yūn 「漢語允」 ⁴⁹ (jang yūn 「張允」)	원	(7-5b-6-7)
žang 「漢語穰」 (žang jioi 「穰苴」)	상	(7-14a-2-5)

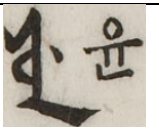
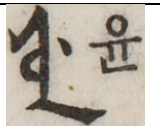
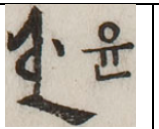
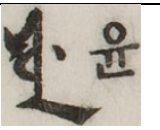
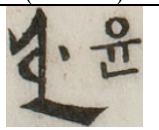
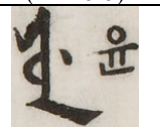
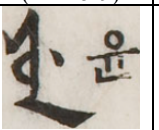
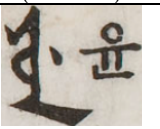
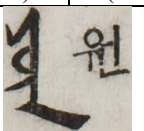
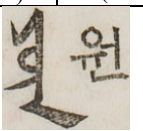

⁴⁹『對音輯字』(上卷第43葉a面)では、漢字「允」に対応する滿洲文字はyūnである。

一方、『三譯總解』における「允」には二通りの形式が見られる。

[1]「王允」における「允」は8例(いずれも第一巻に)出現しており、いずれも滿洲文字表記ではyun、ハングル表記では「윤」の形式をとる。

[2]「張允」における「允」は2例(第四巻および第七巻に各1例)出現しており、いずれも滿洲文字表記ではyūn、ハングル表記では「원」の形式をとる。

表8:『三譯總解』における「允」の滿洲文字表記・ハングル表記
および『對音輯字』における「允」の滿洲文字表記

三譯 總解	「王允」 の「允」	yun 「윤」 (第一巻)	 (1-1a-2-2)	 (1-1a-5-5)	 (1-1a-5-9)	 (1-1b-1-2)
			 (1-1b-2-4)	 (1-2a-3-2)	 (1-2a-6-2)	 (1-4a-6-2)
	「張允」 の「允」	yūn 「원」 (第四巻・ 第七巻)	 (4-1a-3-6)		 (7-5b-6-7)	
對音 輯字	「允」	yūn	 (上-43a)			

参考文献

<日本語文献>

- 池上二良 (1951) 「滿洲語の諺文文献に関する一報告」『東洋學報』33(2): 97-118.
- 池上二良 (1954) 「滿洲語の諺文文献に関する一報告 (承前)」『東洋學報』36(4): 57-74.
- 池上二良 (1963) 「ふたたび滿洲語の諺文文献について」『朝鮮學報』26: 94-100.
- 今西春秋 (1958) 「漢清文鑑解説」『朝鮮學報』12: 21-58.
- 上原久 (1960) 『滿文滿洲実録の研究』東京: 不昧堂書店.
- 王海波 (2026a) 「『三譯総解 (第三)』ハンゲル表記滿洲語文語索引」『KOTONOHA』279: 1-40.
- 王海波 (2026b) 「『三譯総解 (第五)』ハンゲル表記滿洲語文語索引」『KOTONOHA』280: 1-38.
- 小倉進平 (1914a) 「朝鮮に於ける日漢滿蒙語辭書」『朝鮮及滿洲』83: 40-46.
- 小倉進平 (1914b) 「朝鮮に於ける日・漢・滿・蒙語讀本」『東洋學報』4(2): 244-266.
- 河内良弘 (編著) (2014) 『滿洲語辞典』東京: 松香堂書店.
- 河内良弘 (編著) (2021) 『滿洲語辞典 (改訂増補版)』東京: 松香堂書店.
- 菅野裕臣 (2005) 「朝鮮司訳院の清學書のハンゲル対音の性格について」『韓国語學年報』1: 1-8.
- 岸田文隆 (1989) 「清學書に現れた滿洲語ハンゲル表記について: 特に滿洲字 e に対する 2 通りのハンゲル表記をめぐって」『言語学研究』8: 17-38.
- 岸田文隆 (1997) 『『三譯總解』の滿文にあらわれた特殊語形の来源』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長 (1966-1968) 『五體清文鑑譯解』京都: 京都大學文學部内陸アジア研究所.
- 羽田亨 (1937) 『滿和辭典』京都: 京都帝國大學滿蒙古調査會.
- 早田輝洋 (2008) 「滿洲語の音節構造: 音節節約を中心にして」寺村政男・久保智之・福盛貴弘 (編) 『語学教育フォーラム (第 16 号): 言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—』21-51. 東京: 大東文化大学語学教育研究所.
- 早田輝洋 (2009) 「滿洲字概説: 有圈点滿洲字篇」久保智之・林徹・藤代節 (編) 『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』129-167. 福岡: 九州大学人文科学研究院言語学研究室.
- 福田昆之 (2008) 『増訂滿洲語文語辞典』横浜: FLL.
- 保井克己 (1943) 「瓊瑋滿洲語」『音聲學協會會報』74/75: 20-22, 4.
- 和田景子 (2013) 「『漢清文鑑』における滿洲語のハンゲル表記: 特に滿洲語の文字連続 CVwV を中心に」寺村政男 (編) 『大東文化大学日本語学科 20 周年記念論文集』244-255. 東京: 大東文化大学日本語学科.

<韓国語文献>

- 高麗語言研究院(2006) 『朝鮮語古語詞典』牡丹江: 黑龍江朝鮮民族出版社.
- 南廣祐(1997) 『教學 古語辭典』서울: 교학사.
- 두산동아 사서편집국(1994) 『동아 프라임 韓日辭典』서울: 두산동아.
- 성백인(1984) 「譯學書에 나타난 訓民正音 使用: 司譯院 清學書의 만주어 한글 표기에 대하여」『한국문화』5: 21-63.
- 邵磊(2011) 「『漢清文鑑』을 통해 본 滿文의 한글表記法」『中韓文化關係國際學術會議論文集』290-308.

< 中国語文献 >

- 崔宰宇 (1997) 『漢清文鑑』の編排體例和語音轉寫』『中央民族大學學報 (社會科學版)』1997(3): 82-89.
- 馮明珠 (主編) (2006) 『滿文原檔 (第九冊)』台北: 沈香亭企業社.
- 胡增益 (主編) (2020) 『新滿漢大詞典 (第2版)』北京: 商務印書館.
- 邵磊 (2016) 「清-朝鮮時期漢·滿·韓互譯中的文字對音: 以『漢清文鑑』滿文的韓文表記法為例」『編譯論叢』9(2): 57-92.
- 邵磊·多麗梅 (2022) 「海外中國典籍的多語轉寫研究: 以『清語老乞大』漢語-滿文的朝鮮文轉寫為例」『東方語言學』2022(2): 17-25.
- 邵磊·多麗梅 (2023) 「『三譯總解』滿文的朝鮮文轉寫研究」『滿學研究』2023: 195-204.
- 邵磊·金龍軍 (2022) 「清代滿朝對音文獻中的特殊轉寫: 以滿文-w 系復元音的朝鮮文轉寫為中心」『民族翻譯』2022(4): 77-86.
- 邵磊·林茶英 (2022) 「論朝鮮清學書滿朝對音中的音節對稱與不對稱」『滿語研究』2022(2): 69-74.
- 邵磊·任國俊 (2023) 「清學書中的朝鮮文『圈點字』研究」『民族翻譯』2023(3): 78-88.
- 邵磊·王敵非 (2022) 「『清語老乞大』滿文的朝鮮文轉寫研究」『滿族研究』2022(2): 89-95.
- 王敵非 (2013) 「『清語老乞大』滿朝對音研究」『黑龍江民族叢刊』2013(6): 155-158.
- 王慶豐 (2005) 『滿語研究』北京: 民族出版社.
- 趙傑 (1989) 『現代滿語研究』北京: 民族出版社.

< 英語・ドイツ語文献 >

- Ikegami, Jiro. (1990) Significance of Korean materials in the study of Manchu. *Altai Hakpo*. 2: 71-77.
- Lie, Hiu. (1972) *Die Mandschu-Sprachkunde in Korea*. Bloomington: Indiana University.
- von Möllendorff, Paul Georg. (1892) *A Manchu Grammar with Analysed Texts*. Shanghai: American Presbyterian Mission Press.
- Yang, Jaeyeong. (2025) *Diachronic Morphology of Consonantal Stems in Jurchen and Manchu*. Ph.D. dissertation, Seoul National University.

< ロシア語文献 >

- Захаров, И.И. (1875) *Полный Маньчжурско-Русский Словарь*. СПб.: Типография Императорской Академии Наукъ.

An Index to the Written Manchu Words Transcribed in Hangul
in the Seventh Volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: *Sam-yŏk Ch'ong-hae*, Hangul Transcription, Written Manchu

Sam-yŏk Ch'ong-hae is one of the books compiled by the Bureau of Interpreters during the Joseon Dynasty in Korea. In this work, Written Manchu words were recorded in both the Manchu script and the Hangul transcription. Notably, the Hangul transcriptions do not always correspond directly to their Manchu script counterparts, suggesting that they may reflect phonetic nuances not fully represented in the Manchu script. This paper presents a Möllendorff-transcription-based index of Written Manchu words found in the seventh volume of *Sam-yŏk Ch'ong-hae*. By aligning the Hangul transcriptions with their equivalents in the Manchu script (represented in Möllendorff transcription), the index serves as a practical reference for exploring script correspondences and phonological details of Written Manchu.

(おう・かいは boljon@163.com)